

令和 5 年度 (2023 年度) 事業報告

自 令和 5 年 (2023 年) 4 月 1 日
至 令和 6 年 (2024 年) 3 月 31 日

公益財団法人札幌市公園緑化協会

事業運営の概要

当協会の目的達成のため、コンプライアンスの徹底、安全と安心、公平で平等な利用の確保を基本として、みどり豊かで潤いのある持続可能な都市づくりの推進、健全な地域社会の形成、生活文化・福祉の向上に努めました。

令和5年度は新型コロナウイルス感染症も第5類感染症に移行し、多くの事業が通常通り開催され収入もコロナ禍前に戻りつつありましたが、ウクライナ情勢からの原油高による物価や電気料金の上昇、特に人件費や委託業務価格の高騰に伴い、公園の管理経費が引き続き圧迫された年度となりました。

公益目的事業の1 都市緑化基金等事業では、長引く低金利での運用の下、基金の果実だけではなく、収益事業からの繰入れにより苗木の配付やツタ苗の補助などの民有地緑化事業を実施したほか、絵画コンクール、フォトコンテスト、園芸に関する解説書の発行などを通して、緑化推進の普及啓発に努めました。また、ボランティア養成講座を開講し都市緑化のサポーターの養成を図るとともに、花や緑に関わる市民参加の促進や活動主体間のネットワーク化を目的に、さっぽろ花と緑のネットワーク事務局を設置・運営して、会員間の交流の促進や活動を支援しました。

公益目的事業の2 指定管理等公園施設事業では、指定管理計画及び札幌市との協議等に基づき、確実に事業を実施しました。公園施設の維持管理面では、巡視・巡回、点検・修繕、衛生や美観保持のための清掃など、安全と快適性の確保に努めました。また、特定外来生物などへの対応、生物多様性や在来種を重視した植物管理、美しい芝生の維持や季節感のある花壇、健全な樹林づくりなど、良好な景観形成と潤いのあるオープンスペースの創出に努めました。管理運営面では、公園内の開花状況やイベント情報の提供、安全と快適性確保のための利用指導や調整、各公園施設の特性を活かした利用プログラムなどを展開しました。市民参加・協働等においては、登録ボランティアによる様々な活動、地域や他団体と多様な連携協力を行い、事業のあらゆる面で満足度の高い運営に留意しました。

国営公園等受託事業の国営滝野すずらん丘陵公園については、業務継続に係る入札において無事選定を受け契約しました。運営維持管理業務の代表団体として全体のマネジメント及び各事業の企画立案・実施のほか、園内施設等を適正に管理しました。また、厚別公園等の緑地・芝生の維持管理及び大会運営やイベント等の企画・実施に係る業務を適正に実施しました。

収益事業の1 公園施設等附帯収益事業では、公益事業の原資となる営業収益の確保のため、季節感と付加価値のある植物販売、ニーズや公園特性に応じた商品の提供など、お客様サービスの向上に努めました。

法人運営全体としては、組織改編、職員の採用及び定年延長、有期雇用契約者の採用についても優秀な人材の確保に努め、公園施設の管理に必要な資格取得の推進や各種研修を実施しました。特に年度当初には安全衛生、作業機械類の取り扱いなどの研修や消防訓練などを積み重ねて総合的な危機対応力を高め、事故発生の防止への取り組み、人材育成と管理の強化に意を用いました。

また、業務の効率化・経費の縮減を図るとともに、労働環境の整備、職員の働き方の改善に努めました。

公 1 都市緑化基金等事業

札幌市都市緑化基金への募金等造成状況

令和 6 年 3 月 31 日現在

区 分		昭和59年度～ 令和 4 年度	令和 5 年度	累 計
(財)都市緑化基金助成		3,000,000	0	3,000,000
札幌市補助金		513,554,294	1,700,000	515,254,294
	助成等	287,174,944	0	287,174,944
	一般募金	226,379,350	1,700,000	228,079,350
協会への寄付金		31,570,677	370,333	31,941,010
	個 人	1,408,934	1,000	1,409,934
	募金箱	4,871,406	218,035	5,089,441
	企業・団体	15,010,337	151,298	15,161,635
	協会繰入	10,280,000	0	10,280,000
総 計		548,124,971	2,070,333	550,195,304

1 植樹等による民有地緑化事業

(1) 苗木の配布

植樹機会の誘引など民有地緑化の推進を図るため、市民の慶事に際してライラック 137 本、オオベニウツギ 70 本、シラタマミズキ 78 本、アナベル 51 本のほか、中道リース株式会社寄贈のエゾヤマザクラ 80 本の合計 416 本の苗木を配布した。

(2) 壁面緑化の推進

塀や建物を植物で覆うことにより、民有地緑化の推進を図るため、札幌市内の家庭及び事業所等に合計 2 件 16 株(補助は半数)のナツツタの苗を配布した。

2 緑化推進に関する普及啓発事業

(1) キラリ！さっぽろ公園 30 選 2023

緑化意識の高揚と啓発を図るため、札幌市内の公園・緑地で撮影した緑や花、憩いのひととき、自然とのふれあい等がテーマの WEB フォトコンテストを実施し、グランプリ 1 点、準グランプリ 2 点、キラリ賞 27 点を選出し、ホームページ上で公開した。

応募総数 119 人 482 点

(2) 都市公園制度制定 150 周年記念事業 第 57 回緑の絵コンクール

次代を担う子どもたちがみどりに親しみと興味を持ち、理解を深めてもらうため、札幌市内の小・中学生を対象に緑をテーマとした絵画コンクールを実施し、入賞作品 47 点、最優秀学校賞 2 校を選考した。

また、令和 5 年度は都市公園制度制定 150 周年の記念事業として冠称を付して実施し、都市公園制度制定 150 周年記念賞を創設した。

・参加学校数:55 校 応募総数:687 点

・表彰式:令和 5 年 12 月 2 日 さっぽろテレビ塔ホール

・入賞作品展:令和 5 年 12 月 1 日～12 月 5 日 札幌地下街オーロラコーナー

(3) 園芸等に関する冊子の発行

北国札幌で植物を扱う上での特徴や花や緑にふれる楽しさ等、園芸に関する知識や技術を解説した冊子を作成、配布した。

タイトル:すくすくみどりNo.32「ひと鉢からはじめよう おもてなしコンテナガーデン」

3 都市緑化サポーター養成事業

さっぽろまちづくりガーデニング講座

花や緑を通して地域や社会に貢献できるボランティア、都市緑化のサポーターの養成を目的に、まちづくりや園芸等の知識、技術を講義と実習で学ぶ連続講座を開講した。

期間:令和 5 年 4 月 8 日～11 月 11 日

内容:講義と実習を組み合わせた全 17 回のカリキュラム 受講者:12 人

4 緑を通して地域コミュニティの活性化を促す事業

フラワーポットの貸出し

身近な花と緑の創出、地域の環境改善・美化、地域コミュニティの活性化等を図るため、札幌市内の団体にフラワーポットを 3 年間無料で貸し出した。初年度は花苗と培養土も提供。

貸出数:1 団体 10 基(花苗 50 株)。

5 緑のまちづくり活動への助成及び支援事業

さっぽろ花と緑のネットワーク事務局の運営 ※さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業委託業務

花と緑のボランティア活動に携わる人、関心を持つ人に対する活動支援や相互交流を図ることを目的として、「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」を設置、運営し、花と緑のまちづくり活動に役立つ講習や情報の提供、交流会等を開催した。

① 登録数・・・団体 35 団体、個人 272 人（令和 6 年 3 月 31 日現在）

② 情報発信・広報活動

会報誌の発行(4回)、専用ホームページの運営・更新、ソーシャルネットワークサービス(SNS)の活用や、YouTube チャンネルを活用した登録団体の紹介動画を製作し配信した。

③ まちづくり体験実習の運営

公共地において、植栽、メンテナンス等を通じたまちづくりへの参加体験実習を行った。

内容	日程	参加人数	備考
体験実習 「永山記念公園花壇づくりボランティア」(全10回)	令和5年5月～10月	延べ104人	

④ 技術指導講師の派遣

活動の技術的支援のため、登録ボランティア団体・登録者が主催する講習会に講師を派遣した。

実施回数:6回 延べ参加人数:209人

⑤ 講習会の企画・実施

登録者・登録団体を対象に、知識や技術の向上、花と緑のまちづくりを担う人材の育成を目的とした講習会を実施した。

内容	日程	参加人数	備考
市民協働講習会 「街なか花いっぱいプロジェクト」(全7回)	令和5年6月～10月	延べ45人	市民参加(ちょいボラDAY!参加者)20人
講習会 はじめての宿根草講習会	令和5年9月30日	16人	
講習会 種まき・育苗講習会(全3回)	令和6年2月～3月	延べ42人	市民参加48人

⑥ 交流会の企画・実施

登録者・登録団体を対象に、会員同士の交流の場を提供し、情報交換、新たな出会い、知識や意欲の向上、学びの機会創出を目的として交流会を実施した。

内容	日程	参加人数	備考
交流会 押し花クラフト講習会	令和5年9月7日	11人	
交流会 タネ・種苗交換会	令和5年11月9日	延べ80人	
交流会 押し花のフローティングフレームづくり	令和5年11月9日	31人	

公 2 指定管理等公園施設事業

1 公園緑地、自然環境及び都市緑化等に関する調査・研究

公園緑地における自然環境及び生物多様性の保全を図るため、生物・植物等の調査を実施するとともに、外来生物などの問題について地域全体の課題として捉えて啓発を図った。

(1) 大学、研究機関との連携による生物及び環境等の調査・研究

生物多様性の保全と自然の恵みを将来にわたり享受できる社会の実現、また持続可能な利用を推進するため、公園緑地等における現状の把握と課題の解決に向けた調査研究を行った。

このほか、大学の研究者や研究機関等と連携して自然環境等の問題について取り組み、改善に向けた対応策を検討・実施し、併せて市民への啓発を図った。

(2) 環境教育を通じた生物の調査及び報告展等の開催

次代を担う子どもたちによる生物調査プロジェクトとして、研究者等の指導により調査・研究を実施し、報告展及び展示解説を実施した。

(3) ボランティアとの協働による園内生物の調査及び報告

公園登録ボランティア等と協働で、公園緑地内の植物や生物の調査を実施し、結果を公表するなどして、市民への啓発を図った。

(4) 魚類等水生生物の調査・研究

札幌市内の河川等において、水生生物の生息状況やサケの産卵状況の把握、及び水辺環境の保全等を目的とした調査を実施し、結果を公表した。

2 公園緑地及び自然環境等に関する施設の管理運営

公園施設等において、安心・安全・快適な利用環境の確保、質の高いサービスの提供など、適正な管理運営により魅力を高めることで利用の促進に努めた。また、緑化相談や園芸講習会など、都市緑化を推進・サポートする専門性の高い事業を実施した。

(1) 安全及びホスピタリティの充実

見どころやイベント、園芸情報などについて、リーフレットやチラシ・ポスター、ホームページ、札幌市広報、マスメディアへの情報提供など、様々な手段で発信・提供した。特に、公園施設のイベント・展示会・講習会等の開催情報をまとめて紹介する「さっぽろ公園だより」を定期的に発行して広く配布・公開した。また、緑豊かで美しい公園景観の魅力を広く伝えるため、計12公園で「ガーデンアイランド北海道2023」に登録し、北海道における花と緑のネットワークづくりに貢献した。このほか、FacebookやTwitterなどの情報共有ツールを活用して、施設の状況を発信した。

新型コロナウイルス感染の対応については、各公園・施設で随時、札幌市と連携を取り、利用者の感染予防対策を行い利用者が公園の状況を適切に理解し利用するよう努めた。

また、誰もが安心して公園施設を楽しむことができるよう、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化、ハザードマップの公開、AEDの配置のほか、スタッフの救命講習受講、緊急時対応訓練の実施、接遇検定の受検等により、ホスピタリティの一層の充実に努めた。

(2) 開かれた公園管理の推進

市民参加・協働による開かれた管理運営を推進するため、花壇の維持管理やイベントの企画・運営等について、ボランティアや地域住民、関係団体等と積極的に連携を図った。

また、公園施設利用の活性化、市民の活動の場や生きがいの創出、公園を中心とした地域コミュ

ニティ活性化などを目的として、公園施設の利活用協議会等を設置するとともに、利用者アンケート等により市民の声を管理の改善に役立て、より魅力的な公園づくりを進めた。

(3) 都市環境の保全及び改善

HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)の認証を受け、構築した EMS(環境マネジメントシステム)に基づき、公園施設等におけるエネルギー使用量の削減や生物多様性保全など、環境に配慮した取組に努めた。

また、市民参加・協働により公園内の生物多様性の保全と普及啓発を図るため、外来生物の駆除を実施した。

(4) 体験学習プログラム等の実施

自然、生物、歴史など、公園施設の魅力の発信と、身近な環境や緑化の大切さ、公園緑地に対する愛着の醸成を図るため、各種観察会や体験講座等を開催した。また、学校教育への協力の一環として、職場体験や博物館実習等を受け入れ、公園施設管理という仕事への理解を深めた。

(5) 公園施設の特性を生かした展示会及びイベント等の開催

園芸植物、自然、文化などの資源を生かした各種展示会やイベントを開催したほか、愛犬家のマナー向上を目的として、「愛犬といっしょの公園散歩講座」の開催や、札幌市による「リードをつないで楽しくお散歩キャンペーン」に計 15 公園が参加協力した。

(6) 植物及び自然等に関する知識・技術の普及

緑化園芸技術・知識の向上、自然等に関する普及啓発を図るため、各種園芸講習会や生物の飼育展示の企画・開催、専門スタッフによる緑の相談を実施した。

(7) 北国札幌の気候風土に適した植物管理

札幌の気候風土に適した植物を管理し、管理手法も含めた提案を行い、啓発を図った。また公園樹の健全な育成を図るため、樹木管理計画に基づいて適正な管理に努めたほか、稀少植物の保護やその啓発に取り組んだ。

特に、百合が原公園のユリ、川下公園のライラック、平岡公園のウメなど、テーマ植物を有する公園においては、海外を含めた外部との連携や、高度な知識・経験・技術に基づいた品種の導入・育成・管理等を進め、公園の価値と魅力をいっそう高めることに努めた。

3 公園緑地等におけるスポーツ・余暇活動及び健康の維持増進に関する事業

公園緑地を市民の健康増進の場として位置付け、運動教室や初心者講習会、競技大会などを企画・実施し、利用促進を図った。また、プレーパーク等の外遊び企画を実施した。

(1) 健康づくり及び体力の増進

公園緑地や園内施設が市民の健康維持と体力増進の場となるよう、環境整備を適切に行うとともに、ノルディックウォーキングや歩くスキー等の講習会、子ども向けのかけっこ教室など、各種の運動教室等を企画・開催し、市民の健康づくりを推進した。

(2) プレーパーク等、外遊びの推進

子どもたちの心身の健全な発達と自由な外遊びの場づくりのため、地域や関係団体のほか、札幌市子ども未来局と連携してプレーパーク事業の推進・普及に努めた。また、外あそびに関する取組として、公園あそびを推進するための各種体験講座等を開催した。

(3) スポーツを通じた交流及び競技力の向上

スポーツを通じて市民の交流推進と競技レベルの向上を図るため、パークゴルフ交流大会など、

各種の大会、講習会等を企画・開催した。

また、スポーツジムMUSOでは任意団体「North Sprint Dept.」との連携事業として、小中学生を対象とした陸上クラブを運営した。このほか、農試公園ではサッカースクール、かけっこスクールを開講した。

各公園施設における取組

大通公園・創成川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

ボランティアや市民と協働で季節毎に北国の魅力・特性を活かした植物管理を行い、歴史的・文化的財産の共有、まちなかのみどりのオアシスとして質の向上に努めるなど、公園の魅力を十分に発揮し、来園者にやすらぎと活気が感じられる公園の管理運営に努めた。

新型コロナウイルス感染症対策にて規模を縮小し開催していた大規模イベントは本来の規模に戻っての開催となり、それを期待していた利用者が連日訪れ、昨年度よりも来園者数は一気に増加し、夏まつりやオータムフェスト、雪まつり時には各所で人が滞留していた。

予定していた自主事業イベントにおいては利用者層に合わせた催しを提供することで予想以上の集客を得た。市民や観光利用者のために、園内の開花情報等の写真をホームページで適時、発信した。

(1) 市民や観光客への情報発信と「おもてなし」

自主事業として「大通公園インフォメーションセンター＆オフィシャルショップ」を運営した。新規販売商品を企画し、商品化することで販売商品の刷新を図ったこと、販売が伸びない旧商品の販売手法を変えることなど収益増に向けて取り組んだ。

「カフェテラス」及び「とうきびワゴン」の運営は、常設で大通公園西3丁目、西4丁目（雨天中止）で行い、大規模イベント時には西6丁目、西7丁目とうきびワゴン臨時売店を設け、利益の向上と利用者の利便性を図ったことと観光客の来園増で、前年度よりも利用者は増加し、売り上げも約1.6倍となった。

ホームページでは、タイムリーな開花情報のほか、ボランティアによる公園愛護活動の様子を随時発信し、市民協働による公園管理を広め、参加意欲の向上につなげることができた。

(2) 体験型利用の促進

大通公園での大規模イベントは全て開催となったほか、新規で「そばフェスタ」が開催された。また、自主事業として計画していた以下の参加・体験型イベントも予定通り開催し、両公園で開催した秋のイベント（あそぶか〜い、ハロウィン）では昨年度よりも参加者増となった。〔あそぶか〜い約1.6倍、ハロウィン約3倍〕

■利用促進による自主事業イベントの実施一覧

大通公園			創成川公園		
名 称	日 数	参加者数	名 称	日 数	参加者数
バラフェスタ	2 日	延べ 870 人	ライラックの写真募集	募集 32 日	延べ 111 人
バラカフェ（2台）	2 日	延べ 300 人	ライラックの投稿写真展示	展示 18 日	延べ 360 人
大通公園ガイドツアー	5 日	延べ 82 人	創成川ハロウィン	1 日	約 500 人
バラの写真展	13 日	延べ 200 人	創成川公園まちの灯り	1 日	約 160 人
夏休みこどもボランティア体験 （バラの花がら摘み）	1 日	2 人	サンキューフェスティバル 移動販売車	3 日	延べ 400 人
西9丁目移動販売車	2 日	延べ 50 人	まるわかりガイドツアー	4 日	延べ 67 人
大通公園であそぶか〜い	1 日	約 1,000 人			

2 市民参加・協働等

市民ボランティアに対しては、用具の提供や技術指導などの活動支援を行い、市民協働の推進に努めた。

(1) ボランティア活動の支援

企業・団体の清掃ボランティア活動に対しては用具等の貸出しや回収ごみの処理、日程調整など適切なサポートを行っており、新規で申し出てくる団体も増えている。

両公園の登録ボランティアについては、各自で体調管理やマスク着用の有無を行ってもらい、全ボランティアがほぼ予定通りに活動を行った。特に市民で植える花壇造成においては、ボランティア参加者も経年者が多く、予定時間前に終了するほど花植えのレベルが向上している。

ガイドボランティアに関しても市民や観光客との対面対応を復活し、通常のガイド活動を行った。また、ガイド活動の他に、ボランティア研修やガイド時に必要となる園内樹名板の取り付け、小学校の社会学習時のガイドボランティア活動を行った。

ボランティア活動では自発的な活動を重視するとともに、専門家の技術指導によるスキルアップ、必要用品類の支給等で、活動の活性化やモチベーションの向上を図った。冬期間においての室内活動は、園内に掲示する樹名板制作や、冬季屋外イベントでの運営補助に携わってもらった。

ボランティア活動一覧（4月～11月）

公園名	団体名	活動日数	参加者数	活動内容
大通公園	大通公園花壇ボランティア	3 日	延べ 132 人	春・夏花壇の花苗植え込み
	花壇維持ボランティア	30 日	延べ 284 人	大通公園の花壇維持管理活動
	NPO 法人シーズネット	24 日	延べ 217 人	大通公園の花壇維持管理活動
	バラ花壇ボランティア	45 日	延べ 828 人	西 12 丁目バラ花壇の維持管理
	ガイドボランティア	157 日	延べ 275 人	ガイド・研修・樹名板取付作業
創成川公園	植物ボランティア	25 日	延べ 178 人	ライラック等の植物維持管理
	お助け隊	29 日	延べ 167 人	清掃、除草などの公園維持管理
	花くらぶ	22 日	延べ 117 人	コンテナ花壇の維持管理
	除草ボランティア	14 日	延べ 24 人	除草のみの公園維持管理

■ボランティア活動一覧（12月～2月）

公園名	団体名	活動日数	参加者数	活動内容
大通公園	バラ花壇ボランティア	4 日	延べ 41 人	バラのポプリエッグ作製
創成川公園	植物ボランティア	2 日	延べ 12 人	樹名板作成
	お助け隊	4 日	延べ 31 人	イベント「まちの灯り」運営補助

(2) 教育機関との協働

例年行っている近隣小学校との連携事業で、児童による花壇への花苗植込み体験も復活し、2校併せて223人の参加を得た。

■教育機関との協働イベント一覧

大通公園	創成川公園
札幌市立資生館小学校3年生 花苗植え込み	-
札幌市立中央小学校4年生 花苗植え込み	

中島公園・豊平川緑地(上流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

過年度から続く新型コロナウイルスの影響は薄れ、従前の形態に戻りつつある。地域団体や企業、関連団体と調整を行い、規模を検討しながらの事業展開を行った。

(1) 市民にわかりやすい情報提供

当公園・緑地の公式ウェブサイトを活用し、年間を通じた景観の魅力やタイムリーな公園情報を発信することで公園をPRし、新規の公園利用者誘致、リピーターの再訪を促した。

公園で作成している園内樹木マップを継続配布するとともに、札幌ライオンズクラブの協力で樹名板を設置するなど、園内散策のアイテムによるサービス向上と利用促進を図った。

(2) 「都心のオアシス」として公園の魅力向上

都心部における貴重な水景である菖蒲池と鴨々川を有する園内において、良好な景観を楽しんでいただけるよう、サクラやアジサイといった季節を彩る花木類の管理に特に配慮した。また、「野鳥観察会」や「みどころ探訪ツアー」といった自然イベントを開催し、生き物と触れあうことができる企画を提供することで公園の魅力アップにつなげた。

(3) 歴史ある無形資産の維持・継承への協力体制の確保

「さっぽろ園芸市」は昨年に続き中止、「札幌まつり」「ゆきあかり in 中島公園」は規模縮小での開催といった運びとなった。これらの情報はメーリングリストを通して公園内及び周辺の歴史・文化・スポーツ施設や公園内外で活動する市民団体、企業、教育機関などや催事の主催、関係団体と情報共有し、相互協力・支援体制を整えるとともに、公園内の治安・安全性の向上に努め、札幌の文化・歴史を担う無形資産の継承と中島公園のイメージ向上に努めた。

■自主事業による開催イベント一覧

中島公園		豊平川緑地(上流地区)	
イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①中島 Kids ガーデン	延べ 62 名	①パークゴルフ大会	81 名
②いきもの観察会	40 名	②ラストコール杯	115 名
③愛犬といっしょの公園散歩講座	9 名		
④ランタンフェス	7,000 名		
⑤焼き芋テラス	15,000 名		
⑥野鳥観察会	13 名		
⑦ゆきあかり in 中島公園	1,000 名		
⑧焼き芋ミニテラス	1,200 名		
⑨スノーシューレンタル	99 名		

2 市民参加・協働等

地域との連携を図るためコミュニティ推進協議会を継続し、メーリングリストによるイベント開催の情報共有を図った。7月はコミュニティ推進協議会メンバーである中島児童会館が開催した地域の市民や子ども主体のイベント「かもくま祭」に協力。冬季最大のイベントである「ゆきあかり in 中島公園」は規模縮小での開催とした。

豊平川緑地パークゴルフ場（南7条コース・南大橋コース）では、運営を中央区パークゴルフ協会に委託し、新規利用者へのルール説明やマナー啓発、利用者ニーズの把握、コース管理に係るアドバイスなど、サービス向上と利用促進に努めた。

(1) ボランティア活動の支援・協働

園内花壇や花木の管理を市民ボランティアと協働で行い、園内花壇の土壌改良や雑草の繁茂が目立つ箇所を再生・植栽し、公園花壇の質の向上を図った。

(2) 近隣教育機関との連携

公園近隣の中島中学校における総合学習への協力として、公園職員が学校に出向し緑や公園について興味や愛着心の向上を図った。

(3) 市民活動・地域連携による相互の充実

コミュニティ推進協議会、教育関連及びボランティア団体等への事務連絡は過年度に続き電子メールにて行った。「ゆきあかり」事業も開催についても会合を設けず、電子メールでの意見集約・報告とした。

このほかに中島公園内にある豊平館、北海道立文学館の運営協議会に公園職員が委員として参加し、意見交換を行った。

※中止の事業については各団体との検討のうえ開催に至らなかったもの。

■協議会・教育機関・ボランティア団体等との連携による開催イベント・事業一覧

団体名	日数	参加者数	活動内容
フローレスの会	48 日	延べ 412 名	園内花壇・バラ管理等
中島中学校講演会	1 日	80 名	中島公園の歴史について講演
中島中学校総合学習	1 日	80 名	中島公園の活用に関する発表会
かもくま祭	1 日	200 名	児童会館主催イベントへの協力
鴨々川清掃活動	1 日	100 名	公園内を流れる河川の清掃
鴨々川いきもの観察会	2 日	40 名	札幌市と協同で実施する生物調査
中島公園彫刻清掃体験	1 日	10 名	園内彫刻の解説と清掃活動
日本庭園・野点	中止	—	地域団体との共催イベント (八窓庵修繕のため中止)
青空画廊	中止	—	中島中学校生徒の写生画展示 (写生会未開催となり中止)
ゆきあかり in 中島公園	2 日	1,000 名	中島公園地域連携による冬の風物詩イベント

3 利用料金収入

豊平川緑地パークゴルフ場及び南22条野球場は、新型コロナウイルスの影響による休業はなかったが、コロナ禍前令和元年度と比較し、パークゴルフ場は 76%、野球場は 90%程度の実績であった。

利用料金収入合計 7,248,090 円 (パークゴルフ場南7条コース・南大橋コース及び南22条野球場)

円山公園

1 普及啓発・利用促進事業等

多種多様な樹木を有する公園の特徴を生かして、木の実や剪定枝等の植物廃材を活用した「ナチュラルリースづくり」「あけびのバスケットづくり」「もくもく工房」を開催した。

近隣地域の子どもの主な対象とした「円山公園こども夏まつり 2023」や札幌近郊の就農者の販路拡大やさっぽろの農業を市民に PR することを目的とした「円山公園マルシェ」、冬季には「スノーマウンテン造成及びチューブそり貸出」「冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう！2024」「まるやまスノーラフティングチューブ」を開催しており、公園の利用促進及び活性化を図った。

スポーツイベントとして、「かけっこ教室」「青空ヨガ教室」を複数回開催し、大変好評を得たほか、新たに「ツリーイング体験会」を開催しており、今後も継続して開催していきたい。

円山公園の豊かな自然環境や歴史などをテーマとしたガイドツアーとして「円山公園探訪ツアー」を定期的に開催し、好評を得た。

園内ではリスや野鳥などの野生動物への過度な餌付けの影響が懸念されており、この問題への関心・意識の啓発を目的として、専門家や研究者らとともに、野生動物との付き合い方を考える「円山リスの会」を平成 27 年に発足し、市民参加による勉強会として「まるやま野生動物カフェ」を継続的に開催してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染対策が十分に取れないことから、令和2年度以降、開催を見合わせている。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①ちょこっとプレーパーク in 円山公園(41 回)	延べ2,449人	⑧ツリーイング体験会	延べ 13 人
②かけっこ教室(2 回)	延べ29人	⑨ナチュラルリースづくり(5 回)	延べ 74 人
③円山公園マルシェ(15 回)	延べ3,193人	⑩もくもく工房(6 回)	延べ 18 人
④青空ヨガ教室(13 回)	延べ98人	⑪スノーマウンテン造成及びチューブそり貸出	－
⑤あけびのバスケットづくり	延べ5人	⑫冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう！2024	－
⑥円山公園こども夏まつり 2023	延べ942人	⑬まるやまスノーラフティングチューブ(8 回)	延べ 600 人
⑦円山公園探訪ツアー(2 回)	延べ25人		

2 市民参加・協働等

在来植物の保護と外来植物の対策として、北海道自然保護協会と連携し、外来種除去活動を継続して実施しており、ゴボウ 87.4kg、イワミツバ 182.4kg、オオハンゴンソウ 36kg、アメリカオニアザミ 6.3kg、ガーリックマスタード 9.3kg を除去した。

さっぽろ冒険遊びの会との共催で、「ちょこっとプレーパークin円山公園」を開催し、子どもが自由に、のびのびと外遊びできる場を提供した。

花壇管理ボランティアの方々とともに、神宮下園地の花壇の維持管理として、チューリップ球根の掘り取り・植え込み、コスモスの播種・抜き取り、花苗の植え込み・掘り取り、除草作業等を定期的に実施した。

■ボランティア団体による活動一覧

団体名	活動日数	活動内容
一般社団法人北海道自然保護協会	10 日	外来植物(ゴボウ、イワミツバ、オオハンゴンソウ等)の除去活動
さっぽろ冒険遊びの会	41 日	プレーパーク事業の運営
花壇管理ボランティア(個人登録)	21 日	神宮下園地の花壇の維持管理

3 利用料金収入

有料施設は花見期間終了後、順次、開放準備を進め、5月中旬より開放した。適時、必要な維持管理作業を実施し、良好な施設環境の維持に努めることで、有料施設の利用促進を図った。

利用料金収入合計 694,760 円(坂下野球場、自由広場)

百合が原公園

1 普及啓発・利用促進事業等

公園内において、ユリをはじめ、チューリップ、ムスカリ、ライラック、バラ、ダリアなどによる公園景観の提供に努めた。

緑のセンター他での植物展示会、園芸講習会等に中止はなく、リートレイン、世界の庭園も通常通りに営業した。なお、緑のセンター等での植物展示会は 21 回、講習会は 15 回開催した。事業の開催は、広報専任担当者を配置して的確な情報発信を行い集客につなげた。この他、公園を題材としたクイズを出題するオリエンテーリング及びスタンプラリーを各 4 回開催したほか、ガイドボランティアが 5～10 月に園内見どころのガイドで 26 回活動した。プレーパークは、5 回開催した。

■自主事業による展示会・講習会・イベント観覧・参加者数(4月～3月)

- | | |
|--------------|-------------|
| (1)展示会・講習会 | 延べ 81,010 人 |
| (2)オリエンテーリング | 延べ 614 人 |
| (3)スタンプラリー | 延べ 1,116 人 |
| (4)プレーパーク | 延べ 358 人 |
| (5)ガイドボランティア | 延べ 144 人 |
| (6)ワークショップ | 延べ 728 人 |

2 市民参加・協働等

(1)ボランティア活動の支援(4月～3月)

専属のボランティアコーディネーターを配置し、4 つのボランティアグループ、計 46 名の活動を支援して、公園の魅力アップにつなげた。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ・温室管理ボランティア「ミモザ」 11 人 | ・バラ管理ボランティア「ローズヒップ」 14 人 |
| ・宿根草管理ボランティア「クローバー」 9 人 | ・公園ガイドボランティア「ガイド」 12 人 |
| 合計 164 日 延べ 825 人 | |

(2)体験学習、実習等の受け入れ

例年、札幌市内の小中学校や近郊の高校、専門学校などから、環境学習や職業体験、インターンシップの受け入れを行っており、今年度は以下 5 校の受け入れを行った。

- ・市立札幌みなみの杜高等支援学校 教育実習 4 人 9 月 21 日・26 日、10 月 24 日・26 日
- ・上篠路中学校 職業体験 6 人 11 月 10 日
- ・北辰中学校 職業体験 10 人 11 月 16 日
- ・帯広小学校 修学旅行の質疑応答 8 人 8 月 31 日
- ・新川中央小学校 支援クラスの総合学習 6 人 10 月 12 日

(3)生物多様性の普及・啓発

生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として、市民への情報の発信や、連携事業であるオンライン生き物クイズラリー2023 に参加した。

(4)子ども食堂の開催

レストランにて、子ども食堂を 4 月 24 日から 10 月 23 日の第 2・第 4 月曜日に計 13 回を開催し、706 人が参加した。

(5)展示

様々な取り組みの発表の場として、近隣の大学と協働展示を行った。

- ・酪農学園大学と協働で、ユリ展を開催した。

3 緑の相談(4月～11月)

市民園芸の普及、支援のため、緑のセンターで冬期を除く週 2 回(木曜、日曜)、緑の相談業務を行い、相談件数は 633 件だった。

4 利用料金収入(4月～3月)

世界の庭園は、日本庭園がリニューアルオープンとなったことから、ゴールデンウィークには水舞台に毛氈を設置してリニューアルをPRした。リリートレインは、料金設定を見直して、通常料金の変更(360円→350円)、65歳以上の有料化、夏休み期間の子ども割引(1人250円、以降利用人数により割引額を増加)、シルバーウィークの65歳以上無料などのイベントを実施することで、施利用料金収入の増加と利用促進を図った。緑のセンターは開花情報やイベントの広報発信を積極的に行った。利用料金収入は前年より増加した。

利用料金収入合計 16,234,970 円(緑のセンター温室、世界の庭園、リリートレイン)

モエレ沼公園

1 普及啓発・利用促進事業等

これまで維持してきたイサム・ノグチデザインの公園としてのクオリティを確保しながら、魅力ある公園づくりと情報発信力を活かし、公園の価値向上ならびに安全で快適な公園利用を軸に事業を展開した（入園者数 828,400 人）。

(1) 市民や観光客にとって魅力ある公園づくりと情報発信

ア 快適で安全な公園利用、イサム・ノグチ作品としてのポテンシャルを生かした持込イベントへの対応

園内で開催されるマラソン大会や自転車レースなど多様なイベントに協力し、公園に賑わいをもたらすとともに、イサム・ノグチ作品としての知名度を高めた。また、毎年実施されている「モエレ沼芸術花火 2023」（主催：モエレ沼芸術花火実行委員会）は、来場者数 18,210 人が訪れた。

施設等の管理では、安全管理、事故防止に加え、各種イベントへの柔軟な対応・協力をを行い、魅力ある公園づくりに努めた。

イ 国内外への魅力発信と誘客

利用者の情報入手媒体として重要である公式ウェブサイトのほか、SNS などによる効果的な情報発信に取り組んだ。また、園内のサクラの開花情報のお知らせや各種イベントへの取材のほか、旅行雑誌などさまざまな取材に対応して、国内のみならず海外からの誘客にも努めた。また、幅広い年齢層への情報発信にも留意し、一層の認知度向上に取り組んだ。

ウ 多くの市民が質の高いアートに触れ合える機会の提供

市民が気軽にアートに触れ合える観覧無料の展覧会のほか、ガラスのピラミッドのユニークな空間を活用して、アマチュアやプロによるコンサートを開催した。特に、冬季に開催された札幌国際芸術祭 2024 ではメイン会場として普段公開していない雪倉庫や雪原を舞台に質の高い先進的なアートイベントを展開し、アートファンが来場した。これらの事業の実施により、利用促進及び公園の価値向上につなげることができた。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	観覧者数	イベント名	観覧者数
① モエレの1年展	5,572 人	③モエレのホワイトクリスマス 2023	447 人
② ガラスのピラミッド開館 20 周年記念展「鈴木悠哉:Archaic Future」	7,996 人	④ 札幌国際芸術祭 2024 「未来の雪の公園」	17,733 人

(2) 他団体と連携した誘客活動

北海道内各地の美術館等施設が参加する「アートギャラリー北海道」に加入し、相互の連携により、多様な鑑賞機会の提供や魅力あるイベント、効果的なPR活動などの取組に努めた。

また、札幌国際芸術祭では札幌国際芸術祭実行委員会と連携し、さまざまな広報企画を実施した。芸術祭期間中はモエレ沼公園から大通まで無料のシャトルバスが運行され、多くの利用があった。

2 市民参加・協働等

市民が公園を活動の場として気軽に利用できるよう、ボランティア団体と協働でイベントを開催したほか、サクラの育成や栽培などフィールドを活用した活動を支援した。

また、周辺町内会や NPO、ボランティア団体をメンバーとした「モエレ沼公園利活用協議会」を開催し、公園の利用状況のほか、各種事業への取組とその成果等を報告して公園運営に対する理解を深めた。

■NPO・ボランティア団体による開催イベント一覧

団体名	参加者数	活動内容
モイレ HIDAMARI	延べ 175 人	サクラツアー、クラフト「いろいろスプーン」、親子で楽しむ押し葉アート等
NPO モエレ沼公園の活用を考える会	延べ 37 人	モエレ未来の森づくり 2023、ギャラリートーク、花壇の除草ボランティア

3 冬期間における公園活用の促進

冬の公園利用促進のため、日常生活や週末レジャーを楽しむ場として、クロスカントリースキーや冬の散歩コース、ソリ滑り場を設置したほか、スノーシューやソリなど、ウインタースポーツ用品の貸出しを行った。

例年 2 月に実施している「モエレ山爆走そり大会」(運営の中心は東区役所地域振興課)では、実行委員会の一員として円滑な運営に協力し、モエレ山の雪面を活かした地域連携型イベントとして数多くの参加者と観覧者で賑わった(参加者 97 組)。

4 利用料金収入

スポーツ施設の大会利用では、コロナ禍の影響で大会実施の期間が空いたためか、学生のテニス大会は参加者が集まらずキャンセルとなることもあった。なお、野球場は硬式化工事のため、令和6年度まで休止となっている。

レンタサイクルは 6 月頃までは昨年度同様の貸出件数であったが、7 月以降は猛暑、海の噴水の故障等の影響から、入園者が少なくなり、レンタサイクルの利用に大きく影響した。

ガラスのピラミッドの貸室では、結婚式の前撮り等の撮影利用やコンサート、ピアノ発表会、展覧会など幅広い活動に利用された。利用数が増加したこともあり、事前の調整を綿密に行ったほか、他の利用者への案内や調整により円滑な施設利用に努めた。

利用料金収入合計 18,895,224 円

(テニスコート、陸上競技場、コインシャワー、レンタサイクル、野外ステージ、ガラスのピラミッド)

川下公園・北郷公園・豊平川緑地(下流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

ライラックを中心とした花修景の拡充、地域に根付いた健康増進施設、幼児から高齢者までだれもが使いやすい快適な公園管理を柱に利用促進事業を計画し、魅力溢れる公園の管理運営に取り組むこととした。

(1) 公園の特色を生かした公園づくりと普及啓発活動

ア ライラックを生かした公園づくりや情報発信

「第 65 回さっぽろライラックまつり」では、メイン会場である大通会場において、ライラックの苗木販売、川下公園の広報活動、ライラックの育て方等の相談会を実施し、ライラックの普及啓発を行った。川下会場では、ライラックの苗木無料配布や、ライラックガイドツアーの開催、ライラック苗木の販売や展示の他、クイズラリーを実施し、ライラックを身近に感じていただける事業を展開した。

また、SNS を利用して川下公園で撮影したライラックの写真を投稿してくれた方に粗品をプレゼントするイベントを企画し広報媒体にも工夫を凝らした。

イ 健康増進施設としての活動

温水プールや浴室を備えた全天候型屋内施設リラックスプラザを有する川下公園では、各施設の有効活用や市民の健康増進を目的として利用促進事業を実施した。幼児～小学生を対象としたフリースタイルダンス教室の他、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、R2 より開催を見合わせていた比較的、受講者の年齢層が高い水中健康教室を今年度より開講した。

また、川下公園パークゴルフ場では春に大会を開催し、他公園に参加の呼びかけを行ったことにより近隣地域以外からの参加もあり、公園の認知度を高め、参加者の交流を深めた。

■自主事業等による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
① 水中健康教室	378 人	⑤ネイチャークラフト講座	34 人
②フリースタイルダンス教室	753 人	⑥雪とあそぼう in 川下公園	1,111 人
③さっぽろライラックまつり in 川下公園	9,548 人	⑦川下公園スノーラフティングボート	283 人
④パークゴルフ大会(川下公園 PG 場、春開催)	36 人		

2 市民参加・協働等

(1) 市民参加のボランティア活動

ライラックの花から摘み、挿し木や除草を「川下公園ライラックボランティア りらら」の活動として実施し、知識・技術の習得と向上に取り組んだ。

(2) 市民協働の活動

近隣中学校の校外学習の場として「白石区でっち奉公」を実施し、5 校 21 名の中学生が職業体験を通じて公園管理や緑化事業への関心を深めることに努めた。

また、近隣の川北小学校からは、総合学習として広く公園や植物について調べるため、実際に園内を案内しながら疑問に答える内容の依頼があり、また日章中学校からは、公園管理についての質問に対し、文書で答える形で協力し、地域の子どもたちへの環境教育に努めた。

近隣町内会や教育機関等の関係者の参加により川下公園利活用協議会開催し、公園管理や活用方法について話し合い、公園と周辺環境の整備に関して、今後も地域として継続的に相互協力することを改めて確認した。

このほか、北東白石まちづくりセンターによる凧揚げ会への協力、北東白石地区青少年育成会による「雪あそびフェスティバル」において、テントの貸し出しや雪山づくり、雪上ラフティングボートの実施など、近隣の子どもたちの健全な成長に公園として最大限の支援を行ったほか、白石区と地域パートナーシップ協定を締結している「白石区ふるさと会」の活動の一環として、「白石こころどにおける環境美化活動」に参加し、5 月と 11 月に白石サイクリングロードの清掃奉仕活動を実施した。

また、例年実施されている白石区ふるさとまつりについては、片倉鉄砲隊の演武のみ野球場にて行われた。

3 ライラックの継続的な品種管理

老木化や地際に不朽が見られるライラックが増えてきており、ライラックの更新が課題の一つとなっているため、苗圃で数年育成させたライラックを補植した。

また、補植用ライラックを苗圃内に植え込み、数年後大きく成長させた株を補植する予定である。その他、ボランティアの協力を得てライラックまつりで無料配布する苗を挿し木により増殖させている。

4 利用料金収入

利用料金収入については、昨年度より、若干の減収になっている。昨年、夏場の猛暑の影響により、プール・浴室の利用料金が僅かに増収しているが、反対に運動施設の利用料金は減収している。特に豊平川緑地下流地区サッカー場及びパークゴルフ場の利用料金収入の落ち込みが激しい。

また、リラックスプラザを2時間時短営業しているため、若干であるがその分の減収も考えられた。

利用料金収入合計 14,462,290 円(対前年度比 97%、川下公園浴室・プール、川下公園野球場・テニスコート・パークゴルフ場、北郷公園野球場、豊平川緑地下流地区サッカー場)

5 リラックスプラザ時短営業開始

川下公園リラックスプラザは光熱水費等の高騰を発端とし、施設運営の効率化を図り、望ましい管理運営形態の検討を行う目的で、営業終了時間を4月1日より21時から19時までと2時間早めた。

水道・電気・重油使用量などの削減には至ったものの、金銭面で見ると重油や電気料金の高騰や人件費の高騰で委託費などの経費の削減が想定より少なかった。

利用者からは特に不満の声は無く、逆に猛暑の影響もあり8月の浴室プールの売り上げはここ10年間で最高となった。

また、利用者サービスとしては、リラックスプラザ内に幼児用遊具を置くほか、更衣室に脱水機を設置するなど利用者満足の上昇を図っている。

次年度も時短営業を行う事になったが、3月に開催された、川下公園利活用協議会の中で、町内会や近隣学校からの要望等を含め、効率的な運営方法や市民サービスをさらに模索する一年となる予定である。

豊平公園

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平公園緑のセンターでは令和5年度、計画通り全ての展示会、講習会を実施した他、高知県立牧野植物園の協力と日本植物園協会との連携により、7月に特別展示「牧野富太郎パネル展」を開催した。センター年間来館者は客足が戻り114,723人(R4:65,248人)となり、昨年度の来館者より約76%増となった。

(1) 市民緑化の推進を目的としたバラエティに富んだ展示会・講習会の開催

札幌市で最も古い緑のセンター(昭和54年3月開所)として、開所当時から様々な展示会を企画・運営し、令和5年度も人気の植物や、古典園芸、植物を題材とした絵画、クラフトの展示会、また、園芸技術、知識、文化の普及を目的とした園芸教室・講座、自然教室、クラフト講習会を開催した。展示会は前年度比81%増、園芸教室等は前年比41%増となり大幅な参加者増となった。なお、実施した展示会や講習会等の開催に際してコロナ禍は過ぎたが引き続き、換気等の感染防止対策を実施した。

イベント名	回数	参加者数	R4 参加者数
展示会(パンジー・ヴィオラ展他) 延べ154日間	25回	延べ 61,266人	延べ 33,896人
園芸教室(洋ランの栽培、ロープワーク、鉢花・草花・球根類)	26回	延べ 121人	延べ 166人
園芸講座(バラづくり、宿根草)	8回	延べ 193人	延べ 74人
クラフト講習会(あけびクラフト、レカン、寄せ植え等アレンジ、ナチュラルリース)	15回	延べ 162人	延べ 97人
コチョウラン植え替えサービス	3回	延べ 51人	延べ 40人
観察会	3回	延べ 51人	延べ 33人

(2) 市民、他施設との共同イベント開催

令和5年度は、1月20日に当公園登録ボランティアや近隣町内会、児童福祉施設と協働でスノーキャンドルイベントを開催し、スノーキャンドルや雪像を作製した。また、札幌市の生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として連携事業の「生き物クイズラリー(オンライン)」に参加した。

(3) 緑化情報「緑のセンターだより」の発行

季節の植物や栽培方法などの情報を掲載した「緑のセンターだより」を毎月編集・発行して、約13,000部を札幌市各区役所や近隣まちづくりセンター、公共施設、各公園に無料配布するとともに、公式ウェブサイトでも公開した。

北国の園芸情報の発信及び、豊平公園、百合が原公園、平岡樹芸センターの札幌市都市緑化植物園での、旬の開花情報や写真、イベント案内などを掲載し、好評を得ている。

(4) 第58回日本植物園協会総会・大会への参加

令和5年5月に第58回日本植物園協会総会・大会が高知市で開催され、ホスト園の高知県立牧野植物園を視察した。

2 市民参加・協働等

市民による緑化活動の活性化やイベントの充実化を目的として、登録ボランティア団体と公園の花壇や緑地の管理、イベント準備・運営等を協働で行った。なお、猛暑のため8月の活動は休止とした。

・豊平公園花とハーブの会 23日間 延べ270人

園内清掃、屋外花壇・植栽管理、センター内植物管理、花壇・野草園・芝生内除草、リース作製や飾りつけ、イベント作業等

3 緑の相談

市民園芸の普及と支援のため、休館日を除く毎日、電話、対面での緑の相談業務を行った。
コロナ禍のステイホームがなくなり、多用途な活動の再開とともに相談件数も減少したと思われる。

・相談件数 電話、対面相談を合わせて 11,082 件(R4:14,749 件)

4 利用料金収入

利用料金収入合計 1,940,750 円(R4:1,890,100 円) ※テニスコート、講義室

平岡公園・清田南公園

1 普及啓発・利用促進事業等(平岡公園)

梅林の健全な育成と景観の維持・向上のため、積雪寒冷地でのウメ栽培のスキルアップを図り、良好なウメの栽培管理に留意し、清田区ふるさと遺産としての平岡公園梅林の魅力アップに努めた。また、園内の豊かな自然を活用した各種観察会等を開催し、環境教育の場としての利用促進に努めた。

(1) 魅力ある公園づくりと情報発信

ア 札幌の花見の名所としての梅林の魅力発信

令和5年度は、コロナ禍以降初めての梅まつりを開催した。梅林ツアーなどコロナ禍以前に人気のあったイベント開催や梅ソフトクリーム・土産販売所など設置し、サービスの提供もおこなった。また、ホームページにて、令和5年度のウメ開花状況の写真を掲載し梅林の魅力発信に努めた。

イ 市民協働による環境教育の拠点として、自然と触れ合う機会の提供

市民・近隣住民・市民団体・大学等との連携による環境教育の拠点としての役割を果たした、協力している近隣小学校や大学の環境教育授業などは依頼があったものは開催した。地域ボランティア及び連携大学と協働で行っているイベントもほぼ計画通りに開催した。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備 考
① 公園ツアー	6回	84人	
② ヘイケボタル観察会	2回	45人	
③ ベースボール体験イベント	1回	58人	
④ 雪のおうちイグルーを作ろう	1回	4家族	

■ボランティア団体との協働イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備 考
① ながぐつの土ようび	7回	73人	雨天1回中止
② ツリーウォッチング	6回	93人	
③ にぎわいフェスタ	2回	78人	夏・冬

2 市民参加・協働等

(1) 市民の参加・協働による地域の活性化を目指して

地域住民とのコミュニケーションの活性化と公園における市民活動の推進のため、ボランティア活動に意欲のある市民を積極的に受け入れる準備を行った。新型コロナウイルス5類移行後初めての年となったが、コロナ禍以前と比べ活動日数が減少した。しかし出来る限りの支援を行い、市民協働による管理運営を進めた。

■平岡公園の活動ボランティア

活動団体名	活動日数	参加者数	備 考
平岡どんぐりの森	15日	延べ 15人	人工湿地管理・環境イベント等
梅ボランティア	12日	延べ 40人	ウメ管理
パークゴルフボランティア	111日	延べ 310人	パークゴルフ場管理・利用調整

■清田南公園の活動ボランティア

活動団体名	活動日数	参加者数	備 考
清田南公園野球場ボランティア	244日	1名	少年野球場の利用調整

(2) 平岡公園の利活用や環境保全に関する連携

公園の財産である自然環境を保全し、環境教育等への活用を進めていくため、例年ボランティア団体や大学、研究者等と連携会議を開催している。令和5年度は、「はらっぱ会議」を2回開催した。

3 利用料金収入

利用料金収入合計 4,557,120 円 (平岡公園テニスコート・野球場、清田南公園テニスコート)

平岡樹芸センター

1 普及啓発・利用促進事業等

2.9 ヘクタールの園内に北国向けの豊富な樹木や日本庭園、西洋庭園を備え、札幌市都市緑化植物園として緑化の啓発並びに家庭園芸の普及を目指すとともに、北国の造園技術、知識の継承を目的とした市民向けの実践型講習会を開催した。令和 5 年度は、寄せ植えアレンジ等のクラフト講習会を新たに追加し、計画通り全ての講習会を実施した。なお、コロナ禍は過ぎたが継続して換気等の感染防止対策を実施した。

樹芸センター年間来園者は 79,978 人(R4:85,897 人)となり、昨年度比 6.9%減となった。

■自主事業による開催イベント一覧 ※庭園コンサート、スノーキャンドルも入れてください

事業名	回数	参加者数	備 考
① 園芸教室	15 回	延べ 164 人	マツ、オンコ、モミジ、果樹等の剪定等
② クラフト教室	1 回	延べ 60 人	あけびクラフト、寄せ植えアレンジクラフト等
③ オリエンテーリング	2 回	延べ 253 人	春と秋のクイズラリー
④ ひらおか庭園コンサート	1 回	延べ 772 人	庭園コンサート
⑤ Enjoy 平岡夏祭り	1 回	延べ 669 人	歌謡ショー、ビンゴゲーム、キッチンカー等
⑥ まちに灯りを in みどりーむ 2024	1 回	延べ 50 人	スノーキャンドル

2 市民参加・協働等

当園で活動しているボランティア団体である環境サポーターズ「三次郎の会」を適切にサポートすることにより、効率的な植物・樹木の維持管理を実施することができた。

また、ともにボランティア活動をしている「樹木会」も、適切にサポートすることにより、効率的な植物・樹木の維持管理を実施することができた。

■ボランティア団体の活動状況

団体名	活動日数	参加者数
環境サポーターズ 三次郎の会	28 日	延べ 175 人
樹木会	28 日	延べ 52 人

環境サポーターズ三次郎の会と 9 月に「庭園コンサート」を共催し、1 月に「スノーキャンドルイベント」の協力、樹木会は園内の剪定等の樹木の手入れを協働で行った。また、平岡地区町内会連合会との共催で 8 月に「Enjoy 平岡夏祭り」を開催した。

3 緑の相談

市民園芸の普及と支援のため、週 2 回(水曜、土曜)、対面と電話相談による緑の相談業務を行っている。相談件数は 495 件(R4 年 664 件)

4 利用料金収入

利用料金収入合計 26,710 円(R4 年 33,030 円・講義室)

1 維持・管理運営

令和5年度は、遊戯広場とちやぷちやぷ広場がリニューアルオープンとなり、シーズンの終わりまで多くの来園者でにぎわった。公園の駐車場を中心に混雑が常態化していたが公園スタッフ、外注の交通誘導警備員を中心に対応し、大きな事故、怪我なく対応することができた。

公園の維持管理面では、融雪が早く例年よりも早く開園準備を進めることができた。今年度は歴史的な猛暑により芝生をはじめ植物の衰弱がみられたが、有料野球場の灌水を適宜行ったほか雨天の増加に伴い回復した。樹木に関して今年度は支障木、危険木を中心に剪定を行い増加した利用者への安全確保、苦情対応を優先した。全体として総じて計画どおり管理することができた。

花卉類の植物管理は引き続きボランティアとともに花壇づくりやサンルームの植物を管理するなかで、彩り豊かでうるおいのあるオープンスペースづくりに努めた。

冬季は、冬の公園利用を進める中核施設として、安全で快適な利用空間と各種事業の実施のため、多目的広場や歩くスキーコースを中心として圧雪・整備に努めた。また、駐車場や園路の除排雪、四阿をはじめ施設の雪下ろしなど、安全で快適な公園利用と施設の維持管理に留意した。

管理運営面では、農試公園は約5年に及ぶ施設改修工事の4年目となり、札幌市、工事業者との連絡・連携を密にして安全で快適な公園利用に努めた。一方、リニューアルオープンした遊具広場、水遊び場は計画の想定以上の利用があり、施設の不備が当初は見られたが適宜対応するとともに市、設置業者と協議し改修を進めた結果、大きな事故なく今年度の運営を終えることができた。

利用促進に関してはコロナによる行動制限がなくなり計画通りに実施することができた。市民の健康づくりと様々なスポーツを楽しむことができる運動公園としての役割と、幼児や児童を連れた家族利用が多いという特徴を捉えた利用プログラムの実施と情報発信により、満足度の高い運営と公園の価値向上に意を用いた。

社会全体とのつながりでは、『持続可能な2030年までの開発目標(SDGs)』に賛同し、持続可能な社会の実現に向けて、特に「すべての人に健康と福祉を」、「質の高い教育をみんなに」、「住み続けられるまちづくりを」、「陸の豊かさを守ろう」、そして「パートナーシップで目標を達成しよう」などの目標を中心に、日常管理からイベントやプログラムに至るまで積極的に意識して取り組んだ。

(1) 施設の利活用・自主事業

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置を講じた上で、各施設の適正利用とイベントや講習会の開催等に努めた。

ア 有料施設

(ア) 農試公園屋内広場

<アリーナ>

一般的なスポーツ利用のほか、幼稚園等の運動会や職場やサークルのレクリエーションなど、多様な利用目的に対応するよう営業・誘致した。

<サンルーム>

市民の休憩や冬季の採暖のほか、各種講習会の会場として活用するなど、公園の中核施設の一部として利活用した。

(イ) 同野球場

融雪を早めるとともに、良好な芝生の維持などグラウンドコンディションの維持・向上に努めて利用促進を図った。

ホワイトシーズンは自主事業のスノーラフティングの会場として利用し多くの利用者があった。

(ウ) 同硬式テニスコート及び軟式テニスコート

融雪を早めるとともに、適宜、落ち葉清掃を行うなどコートコンディションの維持・向上に努めて利用促進を図った。

(エ) 発寒西陵公園硬式テニスコート

融雪を早めるとともに、適宜、落ち葉清掃を行うなどコンディションの維持・向上に努めて利用促進を図った。

イ 無料施設

(ア) 農試公園遊戯広場

4月にインクルーシブ遊具を備えた施設としてリニューアルオープンし連日多くの子どもや家族連れが利用した。オープン当初は広場にスタッフを配置し巡回監視を強化した結果、事故や苦情がほとんどなかった。

(イ) ちゃぷちゃぷ広場

6月にリニューアルオープンした。工事・コロナ過を合わせて3年ぶりに利用可能となり多くの利用があった。土日祝及び夏休み期間は臨時の迷子センターを配置し直営スタッフによる監視及び利用案内を行うと同時に臨時売店による物販を行い 66 万円の売り上げがあった。

(ウ) 同トンカチ広場・自転車貸出・交通コーナー

今年度は改修工事が行われ自転車貸出、トンカチ広場の運営は中止したが交通コーナーは自転車持ち込み利用可能な状態として開放した。

(エ) 同多目的広場

<グリーンシーズン>

今年度は公園利用の急増に伴いほぼすべての土日祝日を臨時駐車場として開放した。駐車場としての使用が増加した結果、グランドコンディションの悪化が進み整備に多くの時間を費やすと同時に、土日祝日はスタッフによる交通誘導の作業が常態化することとなった。

<ホワイトシーズン>

毎日の巡視点検と除雪・整地等により、安全で良好なコンディションの維持に努め、冬季利用の促進を図った。

(オ) 同歩くスキーコース

毎日の巡視点検を行うとともに、コースカッターによる整備を行うなど冬季利用の促進を図った。

ウ 自主事業

利用者サービスの向上や業務の効率化を図るとともに、新しい日常に柔軟に対応した公園事業を支える収益の確保とコスト削減に向けて次のとおり取り組んだ。

(ア) イベント・講習会

イベント名	開催回数	開催月	参加人数	イベント名	開催回数	開催月	参加人数
① はじめての自転車教室	4回	4月	34人	⑧ ノルディックウォーキングお散歩ツアー	2回	11、12月	8名
② 凧づくり講習会	2回	5月	37人	⑨ クリスマスリースづくり	2回	12月	18人
③ ノルディックウォーキング講習会	8回	5～10月	38人	⑩ 門松づくり	1回	12月	10人
④ のうしミニこども夏まつり	2回	7月	約500人	⑪ 新春たこ作り	2回	1月	29人
⑤ 忍者になって修行だ！	1回	10月	中止	⑫ 歩くスキー講習会	2回	1、2月	14人
⑥ のうしミニこども秋まつり	2回	10月	約850人	⑬ わいわいタイヤチューブ	19回	1～3月	2,481人
⑦ コキアのほうきづくり	1回	10月	9人				

(イ) スポーツ教室

教室名	回数	参加者(延べ)	教室名	回数	参加者(延べ)
のうしサッカースクール (毎週水曜日)	35 回	983 人	のうしかけっこスクール (毎週水曜日)	31 回	518 人

(2) 広報活動

ア 公式ホームページ

基本的な利用情報と公園の利用促進につながる四季折々の自然、開花情報、イベント・プログラム、ボランティア活動、混雑状況、有料施設の情報など、タイムリーな更新に努めた。

新施設のオープン効果によりアクセス数が 36 万（前年比 191%）となった。

イ 情報紙等の作成・配布

公園のイベント情報を掲載した広報紙「農試公園だより」を市内各施設や近隣町内会等に配布するなど、公園の利用促進に努めた。

ウ その他

広報誌、フリーペーパー等に積極的に情報提供するとともに、スタッフが地域FMラジオ局に出演し、公園の基本情報と魅力、施設や植物の情報を伝えるなど、公園を紹介することにより認知度の向上を図るとともに利用促進のためのPRを行った。

2 市民参加・協働及び地域連携等

(1) 登録ボランティアの活動

カボック(農試公園緑化活動ボランティア)

登録人数:10 人

活動日:毎週月曜日

屋内広場サンルームの植物管理や修景、園内の花壇づくりなどについて、スタッフがサポートした。

(2) 地域等との連携

地域を対象とした西区防災実技研修、西区防災訓練(西区主催)への実施協力

「八軒まちづくり協議会」への参加

西区みんなで楽しむマラソン大会 : R5.10.9

スノーキャンドルの作成・点灯 R6.1.20 開催

(3) 近隣小学校との連携

八軒西小学校の総合学習及び職業体験への対応(花壇及びプランターへの花苗等植え込み)

(4) 関係機関等との連携

交通安全子供自転車体験教室の開催:北海道交通安全協会との共催

西区運動施設利活用協議会 : コロナ禍により活動中止

3 利用料金収入

利用料金収入合計 16,461,770 円

(農試公園屋内広場アリーナ・野球場・硬式及び硬式テニスコート、発寒西陵公園硬式テニスコート)

手稲稲積公園・北発寒公園・前田公園

1 普及啓発・利用促進事業等

雄大な手稲山のすそ野に位置する手稲稲積公園は、「主として運動の用に供することを目的とした」市内4箇所の運動公園の一つで、ていねプールをはじめ、市内最大規模の多面数テニスコートや野球場、パークゴルフ場などの運動施設を備えている。小規模ながら野球場やテニスコート等の有料運動施設を備えた手稲区の地区公園である北発寒公園・前田公園と合わせ、手稲区はもとより市内のスポーツの拠点として、市民の幅広い利用を促進するよう管理運営事業を行っている。

(1) 健康づくりやレクリエーションを通じた交流の場とスポーツの拠点としての価値の向上

公園の緑に囲まれた環境にある有料運動施設を良好な状態に維持管理し、四季を通じた市民の健康づくりや交流の場としての魅力を高めるため、スポーツへの新たな参加機会の提供としてテニス講習会を企画し、また地域とみどりの交流の場の創出として子どもや主婦層を対象としたクラフト体験や、市民サービス及び還元の一環として園内植物残渣で作成した腐葉土の無料配布、「冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう」等のイベントを企画した。

■自主事業による開催イベント・講習会の一覧

月日	名称	参加者数
6/5、26	初級・中級テニス講習会	16名
6/8	ピンクリボン運動乳がん撲滅キャンペーン「マンモバス」の設置	60名
8/20	稲積ミニ縁日	500名
9/10	秋の初級・中級テニス講習会	17名
10/20～22	園内落葉を熟成させた腐葉土の無料配布	54名
11/2～4	ナチュラルリース講習会(午前午後/計6回)	61名
11/12	ウッドカトラリ教室	5名
2/3	冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう	20名

(2) 有料運動施設の情報発信による利用機会の向上

公式ウェブサイト内に有料運動施設(テニスコート)の利用状況を発信するカレンダーツールを使用し、迅速な情報更新をすることにより、利用者が施設予約の際の日程調整をしやすいよう工夫した。また空き状況は都度公園公式サイトにて告知を行った。

(3) 新たなスポーツの場としての協力

札幌市による手稲区内でのスケートボードパーク構想の調査結果に基づき、4月29日から10月28日まで仮設のスケボーエリアが設置・開放され、エリアの解錠(秋季は施錠も)を行った。

2 市民参加・協働等

3 公園とも周辺に複数の町内会がある住宅街の中心に位置する公園であることから、特に地域との交流と相互理解、町内会や近隣施設等との連携協力を重視した公園管理運営を行っている。

(1) 市民に親しまれ活用される公園づくり

地域の中で公園の果たす役割を考え、公園の価値を高めていくことを目指し、町内会、まちづくりセンター、幼稚園、学校等の参加により「手稲稲積公園利活用協議会」を継続して開催してきたが、令和5年度は参加組織との調整ができず中止となったため、次年度以降の開催日時や方法を再考する必要がある。ただ、参加組織のメンバーとは個別に情報交換を行う機会を持ち、公園管理運営に反映させた。

また、手稲稲積公園のパークゴルフ場では昨年度まで地域のパークゴルフ同好会のボランティアと協働でコース管理等を実施していたが、今年度は高齢化等の理由でボランティア組織の参加が無くなった。しかし、近隣住民有志の協力をいただき利用者の声を直接聞く機会を持ち、管理運営のレベルアップを図った。

(2) 地域への貢献と近隣との連携・協働を目指した公園づくり

例年、近隣の小中学校等の教育機関による「体験」や「学び」の場としての公園利用への協力や、地域の児童会館との協働した花壇の美化活動、地域イベントへの参画・協力など、町内会や関係団体との連携・協働に努め、地域に根ざした公園利用の促進を図ってきた。

新型コロナウイルスが5類に移行し活動機会が増え、町内会行事へのサポート、地域の就労施設による植物ボランティアへのサポート、児童会館の花活動、前田地区青少年育成委員会による公園清掃活動への協力、連合町内会の街路樹植栽花壇の緑化・美化活動への協力、近隣教育機関の清掃活動場所提供、近隣小学校PTAへの植物資材提供等を通し、地域における公園の価値向上に努めた。

また、近隣連合町内会と児童会館、まちづくりセンター等の公共施設、小中学校等の教育機関、警察や消防、病院等とで組織する「稲積安心・安全まちづくり協議会」に当公園管理事務所も加盟しており、同団体による地域の防犯・防災、安心安全な地域づくりへの協力貢献に努めた。

このほか、近隣町内会からの要望により、通勤通学などで園路を通してJRやバスなどの公共交通機関利用者が冬期間でも安全に通行できるよう、降雪状況に応じて園路除雪作業を実施した。

■ 地域との連携等の実績一覧

月日	名称	主旨・内容	実施/中止
4月～	鉄工団地通街路樹花壇のメンテナンス活動	毎週1回実施される就労継続支援施設「ていね・さくら館」によるボランティア活動への協力	実施
4/22～ 11/25	前田地区青少年育成委員会による公園清掃活動	毎月第4土曜日に開催される、委員会による公園清掃活動への協力(前田公園、稲積公園の2カ所)	実施
5/27	稲積連合町内会下手稲通・富丘通街路樹植栽花壇造成	稲積連合町内会による下手稲通・富丘通の街路樹植栽樹34コマへの花壇造成用の花苗保管、資材提供と技術指導・協力	実施
6/22	稲積小学校3年生花壇植栽	稲積小学校3年生により、休養広場の花壇に1300株の花苗を植栽する体験実習を実施	実施
7/10	稲積安心・安全まちづくり協議会「夏休み非行防止教室」	当園も協議会に加盟。7月10日に稲積中学校で夏休み前の「非行防止教室」に参加11月落葉清掃を実施	実施
7/19～	いなづみ花クラブ(全3回)	いなづみ児童会館の小学生と、花壇植栽や水やり、手入れ等を通じて植物が成長する喜びや学びを体験する活動	実施
8/5	前田ふれあいまつりへの協力	前田連合町内会が主催する夏まつりの運営に協力し、テント等の貸出	実施
10/28	稲積連合町内会下手稲通・富丘通街路樹植栽花壇造成	稲積連合町内会による下手稲通・富丘通の街路樹植栽樹34コマへの花壇造成用の資材提供と協力	実施
11/11	稲積安心・安全まちづくり協議会落葉収集ボランティア作業	稲積連合町内会と協働で公園前道路の落葉収集ボランティア作業への協力	実施
2/5	冬のまちにスノーキャンドルの灯りを灯そう！in手稲稲積公園	いなづみ児童会館の子どもたちと一緒にスノーラタンを作り会場設営を実施	実施
3/16	いなづみ児童会館連絡協議会	いなづみ児童会館の連絡協議会に参加し、年度の事業報告と次年度事業の検討	実施

3 利用料金収入

令和5年度の有料運動施設は4月20日から11月30日まで予定どおり開放できた。手稲稲積公園の大会利用の増加、北発寒公園テニスコートの利用が好調だったため、増収となった。

利用料金収入合計 1,4086,240 円(手稲稲積公園テニスコート・野球場、北発寒公園テニスコート・野球場、前田公園野球場)

1 普及啓発・利用促進事業等

前田森林公園では、ポプラ並木やカナルをはじめとした壮大な景観と、ふるさとの森、つどいの森、野鳥の森等公園の過半を占める樹林帯の自然環境の保全、芝地・草地や野球場・球技場・パークゴルフ場等の有料運動施設の管理においては、特に利用者の安全に留意した維持管理作業を実施した。

令和5年度は、5月8日から新型コロナウイルスが第5類に移行したことに伴い、コロナ禍前の公園施設の開放状態に戻してしていくとの札幌市の方針に従い、有料運動施設をはじめ、バーベキュー広場の開放や、ふじまつり等のイベント等を実施し、園内掲示物の掲出やホームページ掲載等を中心とした広報活動を行った。

(1) 安心・安全な公園づくりとコロナ禍への対応

① 被害を未然に防ぐ適正な樹木管理と植物リサイクルへの積極的な取り組み

前田森林公園敷地の過半が樹林帯であることから、樹木管理においては枯損木や枯損枝、危険木等の伐木処理について、公園利用者の通行往来や隣地・公園施設への被害が想定される箇所から段階的に実施するとともに、サブマネージャー以上の職員が保有している高所作業車の運転操作に係る技能のスキルアップを図り、警報級の暴風雨により発生する被害木を安全かつ迅速に処理できる体制づくりに努めた。

令和5年度は高所作業車を利用して前田森林公園パークゴルフ場のサクラコース・シラカバコース外周の植栽樹木の剪定や、花木園外縁の高木の剪定、星置公園の遊具広場周り的高木の剪定作業を実施し、被圧による生育不良が目立ったパークゴルフ場の芝生や花木園の花木への日照を確保するとともに、下枝の枯れ上がりが目立っていた花木園主園路沿いのケヤキ類、星置公園遊具広場のプラタナス等の剪定を実施し、来園者の通行の多い主園路を中心に、安全安心な環境づくりを行った。

加えて、樹林地内での折れ枝や枯枝、リサイクルヤードの枯損木のチップ化処理や樹木の株元へのマルチング処理、園内で発生した落葉の腐葉土処理等の植物リサイクルを積極的に進めた。

② アフターコロナへの対応と情報発信

市の方針に従い、バーベキュー広場の開放をはじめ、ふじまつり等のイベント開催、利用者への施設状況の案内とあわせ、前田森林公園内施設、山口緑地の管理棟、各パークゴルフ場クラブハウス等のアルコール設置の継続、マスク着用自己判断の啓発ポスターの掲出等の取り組みを行った。

こうした公園を取り巻く状況の変化に対応した園内掲示物の掲出やホームページ・SNS等の活用を中心とした広報活動を行った結果、今年度の公式ホームページへのアクセス数は232,611件で昨年比119.8%、公式X(旧ツイッター)は3月末のフォロワー4,718人で昨年比100.8%となり、いずれも増加傾向となった。

(2) 公園の利用促進につながる自主事業と、ボランティアや教育機関との連携

公園の魅力を高め、公園資源を活用して利用促進を図ることを目的としたボランティア団体の活動や教育機関との連携による環境学習やイベントの実施調整を行い、前田森林公園のボランティア組織と協力してフジの開花期に「ふじまつり」を開催したほか、「トンカチ広場」、「自然観察会」を計画通り実施することができた。

冬期間は、公園の特色を活かしたクラフト系イベントやクロスカントリースキー講習会を開催した。

特に歩くスキーレンタルやスノーラフティング等の冬のアクティビティは、冬の公園の利用促進と市民の健康づくりの場として多くの利用者に好評であった。

■利用促進事業一覧

利用促進事業	開催時期・回数	参加者数
①カナル春・秋清掃	4月、11月(2回)	43人
②トンカチ広場(2回は雨天中止)	5～10月(全10回)	357人
③ふじまつり(共催・規模を縮小して実施)	6月4日(1日)	1,000人
④自然観察会	5～12月(6回)	140人
⑤はじめてのパークゴルフ講習会(前田森林・共催)	6月(3回)	48人
⑥パークゴルフ交流大会(前田森林・協賛)	7月23日(1日)	58人
⑦木の実のリース講習会	11月(4回)	20人
⑧ミニ門松づくり講習会	12月(2回)	10人
⑨クロスカントリースキー初心者講習会(レベル別)	1月(3回)	52人
⑩歩くスキー簡単初心者講習会	1,2月(5回)	37人
⑪歩くスキーレンタル	1～3月(58日)	1,822人
⑫スノーラフティング	1～3月(21回)	392人

2 市民・団体との協働、学校教育での公園利用への対応

公園への親近感の醸成や更なる利用・活用を促すことが出来るよう、ボランティア団体によるイベント開催や公園の資源を活かした学校教育での公園利用活動を支援した。

(1)公園フィールドでのボランティア活動

前田森林公園で活動するボランティア「前田森林公園凸凹クラブ」と連携して、フジの開花期に「ふじまつり」を開催したほか、園内植物の廃材を使った木工工作が体験できるトンカチ広場や公園の四季の移り変わりや動植物の観察ができる自然観察会を開催した。

また、前田森林公園クリーンボランティアのほか、広報さっぽろで参加を呼び掛け、一般市民の方に気軽にボランティア活動に参加いただけるよう、カナルを中心とした公園の清掃活動に参加いただき、景観の維持に協力・貢献していただいた。

- ・前田森林公園凸凹クラブ 連携による普及事業の開催、公園イベントへの協力など(5～12月)
トンカチ広場 10回(内2回は雨天中止) 延べ357人
自然観察会 6回 延べ140人
- ・市民ボランティアによるカナル清掃 3回 延べ43人

(2)教育機関の公園フィールドでの活用(前田森林公園)

近隣の教育機関からの授業・実習の協力依頼の受け入れを行った。

- ・北海道科学大学 メディアデザイン学科(36人) 5月15日(月) 9:00～10:30
- ・北海道札幌高等養護学校(3人) 8月28日(月)及び9月11日(月)～14日(木) 10:00～14:00

3 利用料金収入

今年度は5月8日から新型コロナウイルスが第5類に移行したことに伴い、コロナ禍以前の収入が期待されたが、利用動向が従前とは異なる分散傾向が見られたことや、ゴールデンウィークやシルバーウィークの雨天、6月下旬から8月下旬までの記録的猛暑等の影響により、個人利用に供する施設であるパークゴルフ場は利用者のほとんどが高齢者ということもあって、前年度より2,602,395円の減収となった。

利用料金収入合計 21,034,715円 (前田森林公園パークゴルフ場・野球場・球技場、星置公園野球場・テニスコート、明日風公園テニスコート、山口緑地西パークゴルフ場・東パークゴルフ場)

西岡公園・西岡中央公園

1 普及啓発・利用促進事業等

西岡公園を「水と緑に恵まれた多様な生物の生育・生息地」「環境学習の活動拠点」として、西岡中央公園を「多様な利用のできる地域の公園」として位置付け、地域や市民、専門家、ボランティア団体との連携・協働による事業展開に努めた。

(1)リアルタイムな自然情報の発信

今年度、西岡公園管理事務所の展示室では、通常通り解放することができ、公園内の自然情報については季節に応じた触れる展示を中心に行い、ホワイトボードや公式ウェブサイトにて常時リアルタイムの発信に努めた。

園内で見られる生物紹介展示は多くの来館者から好評を得ており、季節毎にテーマを変え展示を行ったほか、園内の最新自然情報を掲示板等により発信するなど、自然に親しむ目的で来園した市民のニーズに的確に対応した。

季節に合わせて、ミズバショウやハリオアマツバメ、ヒグマ、落ち葉や冬芽、その他鳥類等の紹介展示の他、西岡公園の水辺に生息するヌマチチブ、トヨなどの淡水魚の生体展示を継続して行うなど、自然への理解や関心を深めるきっかけとなる情報の提供ができた。また、公式ウェブサイトでも最新の自然情報等を発信し、自然観察等の公園の利用促進に努めた。

(2)自然や生物に関する講座・観察会等の開催

年間を通して、計画通り実施することができた。西岡公園の植物や野鳥など自然の見どころや公園の歴史を散策しながら解説する「おさんぽガイド」をコロナ禍では定員ありの予約制としていたが今年度より申し込み不要のイベントに戻し実施した。熱中症アラートが発令された日(1日)に関して、参加者が高齢の方が多いため中止とした。工作イベントについては部屋内を十分換気を行いつつ実施した。

特定外来生物の防除活動としてのオオハングソンソウの駆除はボランティアと協働で実施し、勢力拡大の防止、自然環境の保全に努めた。ここ数年、個体数が少なくなってきた。今年度については園内で確認できた個体はほぼ無かった。次年度以降も気を抜かず今の状態を維持できるように努めていきたい。

(3)子どもの外遊びの推進

西岡公園の豊かな自然環境を生かし、子どもたちが自由な発想で遊びをつくる場として、西岡公園で活動するボランティア団体「遊木森森」と連携し、季節に応じた子どもが生み出す遊びの場づくりをサポートした。

「西岡プレーパーク」、未就学児親子対象の「ちょこっとプレーパーク」を実施した。ちょこっとプレーパークは平日に遊べる場や保護者同士のつながりの場を提供することができた。

そのほか、冬季に新規自主事業として、ファミリー向けのイグルー作り体験を実施し、好評を得ることができた。次年度以降も既存のイベントだけでなく、公園のフィールドを活かしたものを模索しながら実施していきたい。

2 市民参加・協働等

(1)西岡公園におけるボランティア団体の活動とサポート

西岡公園では7つのボランティア団体が活動し、各団体の活動目的は木工作、植物調査、公園ガイド、プレーパーク運営、花壇管理、ヤンマ団・さかな組の活動の指導・サポートと多岐にわたっている。各団体との間に構築された良好な関係を維持するため、継続して活動しやすい環境づくりに努め実施しつつ、活動や様々なイベントを協働体制で開催した。

ボランティア3団体の協力により、プレーパークや自然観察、木工クラフトなどを開催し、参加者に公園と自然の魅力を提供することができた。

また、今年度から新規登録となった「ツリークライミングクラブ ハミングバード」(ツリークライミングジャパン公認認定資格者)により、高木の枯損枝処理や、西岡ピクニック時にツリークライミング体験を実施することができた。

次年度以降も継続し活動を行っていく予定。

秋の「にしおかピクニック」や冬の「スノーキャンドルイベント」については、コロナ禍前の状態に戻り実施することができた。

■ボランティア団体との協働によるイベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①おさんぽガイド	151 人	②ちょこっとプレーパーク	155 人
③西岡プレーパーク	391 人	④にしおかピクニック	455 人
③冬の西岡公園にスノーキャンドルの灯りを灯そう	92 人	④子りす工房	67 人

(2) 西岡中央公園における地域ボランティアとの協働

昨年に比べると積雪が少なく融雪が早く、多目的広場は 4 月 1 日から、パークゴルフ場は 4 月 25 日からのオープンとしました。春先には新型コロナウイルス感染症対策を行いつつパークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う 2 団体と協働でオープン準備や園内施設の維持管理を実施したほか、オープン後も維持管理等を行い、利用者の意見・要望等を聴取し、管理や活動に役立てるよう努めた。

新型コロナウイルスが5類に移行後もお互い注意をしながら作業を進めることができた。

3 環境教育・自然環境の保全・調査

西岡公園の多様な水辺の生きものを対象とする「西岡さかな組」と、一湖沼におけるトンボの種数が北海道で一番多いとされる西岡公園でのトンボを対象とした「西岡ヤンマ団」について、子どもたちによる 1 年間の調査活動参加者を募集し、それぞれ調査の実施から成果を公開する活動報告展・展示解説までを年間プログラムとして設定して活動した。当初の計画通り実施することができた。

活動報告展について今年度は、前年度と1箇所場所を変更し実施。市内3会場(西岡公園・豊平川さけ科学館・円山動物園)で実施した。さけ科学館会場ではスタッフの協力も得られ、展示を行うことができ、とても好評だった。

これらの活動は、専門家や子ども達の保護者、西岡さかな組と西岡ヤンマ団を卒業した中高生がボランティアスタッフとして指導や運営のサポートに関わることで、環境教育活動の促進や、環境保全の啓発等につなげることができた。

■西岡さかな組・ヤンマ団の活動

団体名	活動日数	参加者数	活動内容
西岡さかな組	10 日	延べ 82 人	水生生物の調査
西岡ヤンマ団	9 日	延べ 110 人	トンボの調査、標本作り

4 利用料金収入

令和 5 年度は例年と同時期の 4 月 22 日からの利用開放となり、シーズンを通して利用していただくことが出来た。利用状況に合わせ清掃や補修をこまめに行うなど、利用促進に努めた。

土日の利用は多いものの平日の利用が昨年よりも伸びなかったこと(夏の良い時期に気温が高すぎる日があった)で前年度を下回ったものの、収入目標は達成している。

利用料金収入 762,880 円

(参考 前年 863,360 円 /計画目標 611,000 円 (西岡中央公園テニスコート))

札幌市豊平川さけ科学館

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平川や琴似発寒川、星置川などの身近な川に遡上・産卵するサケをより多くの市民に見ていただくため、観察会の実施やインターネットによる観察情報の発信、河川でのサケ観察につながる展示解説を館内で実施し、豊かな自然体験が市民の心の財産となるよう、普及啓発に努めた。また、市内に生息する水辺の生き物の展示などにより、サケに限らない生物多様性の保全につながる教育普及活動にも積極的に取り組んだ。

(1) 市民にとって魅力あるさけ科学館づくり

ア 楽しく見学し、学べるさけ科学館

サケや市内に生息する水辺の生き物等を、子どもでも楽しく学べるように、親しみやすいキャラクターを活用し、分かりやすく伝える展示物の作製や解説を行った。また、サケ親魚・受精卵・発眼卵・稚魚をより多くの市民に見ていただけるよう、それぞれの展示期間の調整に努めた。入館者数は、前年度比 94.5%の 49,953 人となった。6 月 21 日(水)から 6 月 25 日(日)にクマ出没による真駒内公園閉鎖に伴い臨時休館となり、また、7 月から 9 月前半にかけて真夏日が多くお客様の出足が鈍り、入館者数が減少した。

イ サケの魅力を生かしたイベント・学習の実施・情報発信

「サケ稚魚体験放流」は、ゴールデンウィークにサケにふれあう体験行事として市民に定着しており、3 日間で 2,766 人が参加した。多くの市民が来館する機会に、放流魚だけではなく、豊平川の野生サケについての普及啓発も実施した。9 月 17 日(日曜日)にサケ遡上シーズン序盤のイベントである「さっぽろサケフェスタ 2023」では、館内クイズラリーなど各ブースとも好評で親子連れのお客様が多くみられ、来場者数は 814 人となった。当日実施した真駒内川サケ観察会は、開催場所の公園橋上からサケ・サクラマスの上見が見られなかったため、パネルなどを用いて例年の遡上状況を説明し、今後、サケやサクラマスの観察に役立ててもらえる解説を実施した。11 月 11 日(土曜日)から 12 日(日曜日)の 2 日間、エスコンフィールドにおいて、北海道日本ハムファイターズとの連携事業を実施した。試合会場で子供向けサケ学習イベントを行い、多くの来場者にサケについての教育普及やさけ科学館の PR をすることができた。(2 日間の観客動員数、約 26,000 人)。

サケ学習の指導・協力としては、東白石小学校や東橋小学校等に対して、サケの遡上観察、人工受精から卵・稚魚の育成、河川放流までの一連の学習をサポートした。

ウ その他の教育普及イベントの実施

サケや水辺の生き物に興味を持っていただくために、来館者が気軽に参加できるものから、じっくりと学ぶことのできる実習まで、多様なニーズに対応した各種体験イベントを、企画・実施した。

■体験イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
サケたちのエサやり体験(5 回)	延べ 113 人	サケタッチプール(5 回)	延べ 446 人
知る・見る カニさん、ザリガニさん	延べ 47 人	琴似発寒川サケ観察会(2 回)	延べ 165 人
知る・見る・カエルさん	延べ 43 人	豊平川サーモンウォッチング	延べ 15 人
両生類のエサやり体験	延べ 7 人	サケの採卵実習	延べ 20 人
琴似発寒川さかなウォッチング	延べ 26 人	サケの人工授精体験(3 回)	延べ 89 人
真駒内川さかなウォッチング	延べ 25 人	サケ飼育員の解説ツアー(3 回)	延べ 15 人
星置川さかなウォッチング	延べ 6 人	みずといきものをかこう	延べ 14 人

(2) 他団体と連携した活動

ア 地域連携を軸とした、開かれた施設管理と活動の推進

水辺環境の情報を広く発信するため、地域住民・団体・大学・行政及び研究機関との連携を進め、運営の活性化に努めた。また、相手先の団体等が実施するイベント・講座等にもできる限り協力するように努めた。

実習やイベント、飼育、調査などをサポートする「さけ科学館ボランティアの会」は 37 年の歴史を有し、現在

も学生等にとっては社会勉強の場として、一般市民には生涯学習や地域社会への参加の場として、有意義な活動を継続して行っている。

※R5 年度ボランティア活動(日数/人数) 111 日/211 名

イ 市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携した、豊平川の野生サケ保全活動への取組

過去の調査により、約 7 割の個体が自然産卵由来の「野生サケ」であることが判明した豊平川において、市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携して、野生サケの優先的保全に継続して取り組んだ。

サケ稚魚の放流数をいったん減らし、野生魚と放流魚(耳石温度標識を施標)の割合を継続的にモニタリングして順応的に管理する手法を導入し、調査を継続している。また、1 月 27 日(土曜日)に NHK 札幌放送局において開催された市民フォーラム「豊平川野生サケ 10 年後の景色を語ろう！」では、計 128 名の参加者

であった。基調講演では、「川に必要な 3 つの流れ:サケ産卵環境に重要な砂利の流れに着目して」が話され、サケの産卵環境について詳しく知ることができ、参加者から大変好評を得ることができた。

2 調査・研究等

(1) サケ遡上親魚の捕獲・産卵状況調査

サケの遡上状況の確認のため、一部のサケ親魚を網等で捕獲し、体長・年齢などを記録した。また、河川での産卵状況も併せて調査し、産卵箇所の数からサケの遡上数を推定した。調査と並行して、産卵場所・周辺の状況を巡視確認し、豊平川やその他市内河川でのサケ産卵環境の把握に努めた。

調査の結果は、サケの観察情報としてホームページや館内掲示等で随時公開したほか、河川内の工事に先だって、サケへの影響に配慮した工法・期間等を検討する際の基礎資料としても活用された。

■サケ遡上・産卵状況調査の結果

河川	産卵数	推定遡上数	河川	産卵数	推定遡上数
豊平川	972 箇所	1,944 尾	星置川	58 箇所	116 尾
琴似発寒川	169 箇所	338 尾			

(2) 札幌の水生生物等の生息状況調査

札幌市内・周辺の水辺において、生物の生息状況の調査を継続的に実施した。調査にあたっては、地域住民や活動団体、他分野の研究者などと積極的に連携し、また、水辺を含む広い視点での環境の把握に努めた。

58 地点で調査を実施し、計 26 種の魚類・甲殻類を確認した。開館当初から 38 年以上に及ぶ調査の結果は随時整理・公開し、札幌の水辺における生物多様性保全に向けた基礎資料として活用した。

4 月 8 日から 6 月 18 日(計 11 回)に、「両爬の生態系をかんガエル札幌市南区チーム(かんガエル)」による国内外来種「アズマヒキガエル」の防除作業に協力し、情報を共有した。

8 月 24 日、9 月 8 日、10 月 5 日に、岡山大学・北大地域科学研究室・札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課・北海道自然環境課・環境省北海道地方環境事務所・(一財)自然環境センターによる、豊平川、山部川真栄西公園付近及び厚別川真栄～ふれあいの森付近の魚類相調査及び特定外来生物の「ウチダザリガニ」調査・計測作業に協力し、情報を共有した。

(3) 大学・研究機関・行政等の調査・研究等への協力

大学や研究機関・行政等からの調査・河川工事・実習等への協力、調査記録の提供等、計 89 件の依頼があった。これらに対して積極的に対応し、また、研究等の成果をさけ科学館の教育普及に活用した。

主な協力先:札幌市(水道局、建設局土木部、下水道河川局河川事業課、環境局環境共生担当課、円山動物園、小学校等)、北海道開発局、札幌河川事務所、札幌建設管理部、北海道警察本部、下水道科学館、小樽水族館、北海道大学、帯広畜産大学、東海大学、日本大学等

月寒公園・吉田川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

月寒公園再整備計画のコンセプトである「パークライフ」に基づき、市民参加、市民協働を積極的に推進し、つながりから生まれる多彩なイベントを展開した。子どもの利用が多い公園の特色を生かし、月寒プレーパークの会と協働でプレーパークを定例開催するほか、未就学児対象のイベントも積極的に開催した。

また研究機関等と連携し、札幌の身近な野生動物をテーマにしたワークショップや観察会等を行い、人と野生動物が共生できる環境づくりに努めた。

(1) 多彩なイベントの展開

パークヨガや薪割り体験、クラフト教室、愛犬のさんぽ講座、パークゴルフ大会など、公園の新しい楽しみ方の提案やコミュニティの醸成につながるような、多彩なイベントを展開した。昨年度に比べ、イベント数は6増加し、イベント参加者数も442人増加している。

(2) 子どもにやさしい公園づくり

未就学児親子が自然にふれあい、自然の楽しみ方を学べるイベント「おやこでわくわく月さむぼ〜うたとえほんともりあそび」や、子どもの自由な発想で遊ぶことができる空間づくりを目指す「つきさむこうえんであそぼうかあい(プレーパーク)」等、四季を通して子どもが安心して遊べる環境づくりに取り組んだ。

(3) 野生動物に関する取り組みと普及啓発

月寒公園では、キツネの研究者である池田貴子講師(北海道大学大学院教育推進機構 CoSTEP)と協働で、キツネの生息環境調査と、エキノコックス駆虫薬入りベイト散布に取り組んでいる。また、普及啓発活動として、「パークライフカフェキタキツネ」を開催し、キツネの生態やエキノコックス症について学び、野生動物と人の関わり方を考える機会を作っている。月寒公園ピクニックにおいても、北海道大学学生によるキツネの調査紹介ブースを設けるなどして、普及啓発に積極的に取り組んだ。

また3月には、エゾリスの研究者を講師に「生きものゼミナール in 月寒公園 エゾリスみつけ！街の野生動物とどう付き合う？」を開催し、エゾリス研究最前線のお話を聞き、実際にエゾリスを観察した。

野生動物に関するイベントは、市民の関心が高く、イベントの満足度も高いことから、今後も継続することで、人と野生動物が共生できる環境づくりに努めたい。

■ 自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数	参加者数
① おやこでわくわく月さむぼ〜うたとえほんともりあそび	4回	43人
② つきさむパークヨガ	2回	8人
③ きのみであそぼう	20回	186人
④ 月寒公園ピクニック	1回	1,256人
⑤ 親子でまき割り体験	2回	3人
⑥ 野の花を植えよう	1回	33人
⑦ あそンドル！〜つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル	1回	656人
⑧ つきさむこうえんであそぼうかあい(プレーパーク)(平日開催は未就学親子対象)	21回	320人
⑨ パークライフカフェキタキツネ	1回	24人
⑩ 月寒公園花壇づくり	1回	57人
⑪ 愛犬と一緒にの公園さんぽ講座	1回	11人
⑫ カルチャーナイト	1回	502人
⑬ ドッグランイベントin月寒公園	1回	34人
⑭ 秋の月寒公園ドッグランイベント	1回	54人
⑮ 第9回つきさっぷ杯	1回	25人
⑯ つきさむオータム杯	1回	21人
⑰ 秋の月寒公園体験会〜元気で楽しいサロン	1回	22人
⑱ いきものゼミナールin月寒公園「エゾリスみつけ！〜街の野生動物とどう付き合う？」	1回	35人
⑲ 吉田川公園自然さんぽ	1回	5人

2 市民参加・協働等

(1)月寒公園市民協議会(月寒公園ファンクラブ)との連携

再整備を検討する中で市民により設立された月寒公園ファンクラブと共催で、「カルチャーナイト」(7月)、「月寒公園ピクニック」(9月)、「あそन्दル!〜つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル」(1月)を開催した。3つのイベントの参加者数は、合計2,414人と非常に多く、多彩な企画を展開することで、多くの公園利用者に楽しんでいただけるイベントになっている。

■月寒公園ファンクラブとの共催事業一覧

イベント名	参加人数	活動内容
① カルチャーナイト	502人	フラ&ウクレレサークルのステージや、近隣高校の部活動によるコンサート、ハワイにまつわる展示や工作体験等を実施した。
② 月寒公園ピクニック	1,256人	屋外コンサートやステージ、月寒公園ファンクラブによるプレーパークやクラフト体験、北海道大学によるキツネ調査の紹介ブース、野菜の販売、市内福祉施設等の販売ブースなど、秋の公園を楽しむ多彩な企画を展開した。
③ あそन्दル!〜つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル	656人	スノーキャンドルづくりと点灯、雪あそびやイグルーづくりなどを楽しむプレーパークを実施した。

(2)ボランティアとの連携

月寒公園では2団体が活動しており、特に月寒公園ボランティア会は、花壇の管理やシバザクラエリアの除草、イベントのサポート等、精力的に活動した。吉田川公園では、パークゴルフ場の管理と多目的広場の管理を行う2団体が活動し、市民協働による維持管理を進めた。

■ボランティア団体による活動一覧

団体名	登録人数	活動日数	のべ人数	活動内容
月寒公園ボランティア会	22人	84日	442人	シバザクラエリアの除草、花壇の管理、イベントのサポート
月寒プレーパークの会	8人	21日	46人	プレーパークの開催
東月寒レオンズ (吉田川公園多目的広場ボランティア)	3人	164日	492人	多目的広場の管理運営
吉田川公園パークゴルフ振興会	7人	185日	223人	パークゴルフ場の管理運営

(3)とよひらまちづくりパートナー制度への登録

地域貢献の意欲をもった企業や団体が、地域のパートナーとしてまちづくり活動に参加する制度「とよひらまちづくりパートナー」に「月寒公園パークライフコンソーシアム」として登録し、美園第9町内会の夏祭りや、美園児童会館の月寒公園探検ツアー等に協力した。

3 利用料金収入

利用料金収入合計 8,041,085円

(月寒公園野球場(坂下・高台)・テニスコート・パークゴルフ場・貸ボート、吉田川公園テニスコート)

旭山記念公園

1 普及啓発・利用促進事業等

札幌市街地を一望できる眺望と、札幌市内でありながら豊かな自然環境がある当該公園を活かし、多様な環境教育事業を企画し、市民団体や近隣教育機関等と協働で実施するとともに、公式ウェブサイト等によるタイムリーな野鳥等の自然情報を発信し、公園の利用促進、環境教育、みどりの普及啓発に取り組み、公園の魅力向上に努めた。令和3年度に当該公園で出没が確認され、近年札幌市内でも出没が相次ぐヒグマについて、引き続き生態、藻岩山等近隣での出没情報、注意喚起等の看板を各所に設置し、ヒグマへの知識や対策についての普及啓発に努めた。

(1) 自然豊かな環境を生かした環境教育の場の提供

市街地に近い場所にありながら、気軽に豊かな自然が楽しめる環境であることから、森林浴やバードウォッチング等で近隣や市内各所から幅広い方が来園、利用された。また野鳥や自然をガイドする観察会等の自然に親しむイベントを年間通して開催し、環境教育の場の提供に努めた。野鳥観察会は近年のシマエナガ等の野鳥人気で需要が高まり、また「野鳥の公園」として広く認知されてきていることから、年間を通して多くの方に参加していただき、バードウォッチングを通して、豊かな自然環境を体験していただく機会の提供に努めた。また札幌市から貸与された油圧式の薪割り機を活用し、園内の作業で発生した枯損木等の丸太を薪に加工する「薪割り体験会」を開催した。薪は森の家の薪ストーブの燃料として利用した。

(2) 生物多様性を保全する活動の推進

近隣小学校の依頼で、当該公園の歴史や自然環境を調査して学校新聞を作成する総合学習「旭山ウォーカー」に協力した。身近な公園を通して豊かな自然環境等を学ぶ内容で実施し、環境保全の意識啓発を図ることができた。

また旭山自然調査隊が主催する自然調査体験プログラム「森のたんけん隊」の活動をサポートした。当該公園での生き物観察や旭山都市環境林にある池ではエゾサンショウウオの生態調査・観察等を行ったほか、池に土砂が流入しないように自然素材を使って土壌流入を防止する「ダム」作りを行った。オオムラサキの保護活動では、巨木の谷で育樹管理するエゾエノキの若木が盗掘と思われる被害にあう残念な出来事はあったが、引き続き生き物や自然環境に学び、守る活動に協力した。

(3) 公園の特徴を生かした広報活動

公式ウェブサイトでは野鳥等の自然情報、施設情報、環境教育事業のイベント情報等について191件更新し、閲覧回数は462,476件だった。閲覧回数の昨年度実績比は約152%で毎年増加が続いている。多くの野鳥が見られ、サクラと紅葉の時期でもある春と秋、シマエナガの情報をもとめる1月頃が特にアクセス数が多かった。シマエナガ人気は続いており、市内のほか道外からの問合せも多くいただいております。広報活動の成果として、全国的にシマエナガ等の野鳥が多くみられる公園として認知されてきていることがうかがえる。

(4) 社会福祉への貢献

令和3年度から継続して福祉団体「特定非営利活動法人手と手」にレストハウスの管理運営を委託しており、障がい者の自立に向けたサポートを行った。レストハウスでの売店運営や清掃のほか、テイクアウトメニューの下拵えやオリジナル商品の制作など、間接的な面においても就労機会の創出に貢献した。また引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行って営業した。

2 市民参加・協働等

旭山記念公園市民活動協議会（以下、市民活動協議会）および登録団体の旭山自然調査隊と連携し、近隣小学校との連携事業「旭山ウォーカー」を共催、また旭山自然調査隊が主催する「森のたんけん隊」等の環境教育事業の活動をサポートすることで、利用促進と環境保全の啓発に努めた。

また2023年10月から指定管理者が設置する公園ボランティア「旭山記念公園ボランティアの会」の活動を開始した。主に公園内の樹木や草花の維持管理、園内の清掃、指定管理者が主催するイベントの準備等をしていただいた。また当団体は札幌市森林ボランティアにも団体として登録し、隣接する旭山都市環境林でも山野草の保全活動などを行った。 ※2024年3月末時点で会員6名

■公園ボランティア「旭山記念公園ボランティアの会」の主な活動一覧

旭山記念公園	旭山都市環境林	イベントその他
<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ拾い ・樹名板の作成・更新 ・(冬期)園路の拡幅 スノーシューで踏圧して園路を拡幅 	<ul style="list-style-type: none"> ・山野草の保護・保全活動 山野草の位置、生育状況の調査、ベニバナイチヤクソウ周辺の落ち葉清掃など ・ゴミ拾い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「クリスマスリース作成体験」の準備 リース材料の収集・加工、リースベースの作成 ・「クルミのウインドチャイム作り」の準備 クルミの枝の皮むき ・旭山自然調査隊主催「森のたんけん隊」サポート ・薪の運搬(森の家)

■普及啓発・利用促進イベント及び市民活動協議会等との共催事業一覧

イベント名	参加者数	活動内容	共催等
野鳥観察会(26回開催)	400名	環境教育・利用促進を目的とした、園内の野鳥観察会。	共催:旭山森と人の会
初心者対象野鳥観察会(2回開催)	30名	環境教育・利用促進を目的とした、園内の野鳥観察会。野鳥観察初心者を対象に見つけ方や、双眼鏡の使い方などをレクチャー。	※2023.10 解散に伴い以降、指定管理者単独。
早朝野鳥観察会	14名	環境教育・利用促進を目的とした、園内の野鳥観察会。6時15分から開催。	
平日野鳥観察会(3回開催)	41名	環境教育・利用促進を目的とした、園内の野鳥観察会。平日9時から開催。	
自然観察会(4回開催)	57名	環境教育・利用促進を目的とした、園内および旭山都市環境林で行なう自然観察会。	
ネイチャーカフェ「私選野鳥観察地案内」	15名	環境教育・利用促進を目的とした、道内の野鳥の観察地を紹介する講習会。	協力:旭山森と人の会
WONDER FOREST	70名	環境教育・利用促進を目的とした、野外遊び等を通じた自然体験イベント。	主催:札幌まるやま自然学校 協力:指定管理者
旭山記念公園フォトコンテスト	11名	レストハウスおよび公園の利用促進と環境教育を目的としたイベント。旭山で見られる野鳥の写真を公募して、一次審査を通過した作品をパネル展示。その後来館者の投票でグランプリを決定。	共催:NPO 法人手と手
園芸講習会「ミニ観葉グリーンミックスのアレンジ寄せ植え」	8名	利用促進・園芸を通じた緑化普及を目的とした、観葉植物の寄せ植え観察会。	
旭山ウォーカー	150名	近隣の緑丘小学校4年生の総合学習に協力し、学校での講演、公園での現地学習に協力する。	共催:札幌市立緑丘小学校 協力:市民活動協議会、札幌市中央区土木部
カルチャーナイト2023	7名	園内の倒木処理や剪定で発生した木材などを利用しておはしを作る講習会。	主催:カルチャーナイト実行委員会 共催:指定管理者 協力:旭山町内会、旭山森と人の会
薪割り体験会(2回開催)	3名	公園の利用促進及び自然リサイクルについての環境教育を目的とした薪割りを体験。	
バードウォッチャーのための樹木観察会(2回開催)	24名	環境教育・利用促進を目的とした、野鳥と樹木の関わりについてガイドする樹木観察会。	協力:旭山森と人の会
園芸講習会「実ものとマムのシックなバスケットアレンジ」	5名	利用促進・園芸を通じた緑化普及を目的とした、実ものやキク科の花などの切り花・枝を使ったアレンジフラワーの講習会。	
旭山森のフェスティバル	81名	木工クラフトや自然観察ツアー等を通じて、利用促進、環境教育、地域交流を図る。	共催:市民活動協議会
園芸講習会「ナチュラルクリスマスガーランド作り」(2回開催)	16名	園芸を通じた緑化普及と自然環境への関心につなげることを目的とした、クリスマス飾りを作る講習会。	
クリスマスリース作成体験	3名	環境教育・利用促進を目的とした、クリスマスリースを作成する体験会。	
スノーシュー自然観察会(6回開催)	100名	環境教育・利用促進を目的とした、スノーシューを履いて園内および旭山都市環境林を散策し、自然をガイドする観察会。	
冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう	14名	災害被災者への鎮魂と冬の公園活用について考えるほか、地域とのコミュニケーションや公園の利用促進を目的としたイベント。雪でスノーランタンを作成、キャンドルを設置して点灯。	
クルミのウインドチャイム作り	16名	剪定や幼木処理で発生した木材を再利用した、緑化普及と自然環境への関心につなげることを目的とする木工クラフト講習会。	
ノルディックウォーク体験	例年依頼する「ノルディック・こりんめーたんクラブ」講師の事情により中止。		
星空観察会	市民活動協議会スタッフの確保ができなかったため中止。		
旭山冬のフェスティバル			

その他公園緑地等

1 普及啓発・利用促進事業等

市民の健康増進及びスポーツの普及振興を図ることを目的として、スポーツジムや各種運動教室、陸上クラブを開催した

(1) 各種運動教室の実施

新たに「ズンバ・骨盤コンディショニング」教室をスタート、トータル 24 教室とした。カミニシビレッジを使用し、6,725 人が受講し、健康増進と施設の有効利用を推し進めることができた。

(2) 厚別アスリートアカデミーの運営

競技者が安心して活動できる環境づくりや、競技の普及及び発展に貢献しながら、地域の新しいコミュニティの構築や地域振興、さらに参加者の競技力向上のみならず、心の成長も目的とした事業として、厚別アスリートアカデミー (Atsubetsu Athlete Academy) を任意団体「North Sprint Dept.」と連携し継続運営した。

(3) スポーツジム MUSO の運営

トレーニング愛好者やアスリート、市民が安心してトレーニングを行える施設を提供。各競技の普及及び発展に貢献しながら、地域の新しいコミュニティの構築や地域振興を目的とした事業。

2024 年 6 月にオープンし 5,925 人が利用した。

2 施設等収入

施設収入 12,252,460 円 (運動教室、スポーツジム MUSO)

受講料収入 7,161,000 円 (厚別アスリートアカデミー)

他 1 国営公園等受託事業

滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務を受託する共同体の代表団体として、公園・園内施設の利用対応、イベント等の企画・実施のほか、管理計画に従い植物・園内施設等の維持管理業務を実施した。また、厚別公園等の緑地・芝生の維持管理及び大会運営やイベント等の企画・実施に係る業務を適正に実施しました。

1 滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の総轄

- (1) 園内の総務・経理事務
- (2) 入園料の徴収事務
- (3) 植物管理・施設管理・園内及び建物清掃
- (4) ヒグマ対策 園内侵入防止対応、外周柵監視、巡回点検等
- (5) 入園者数 夏期〔4～11月〕 315,363 人（国の示す目標値 411,000 人の 76.7%）
冬期〔12～3月〕 109,302 人（国の示す目標値 82,000 人の 133.2%）

2 利用指導及び利用サービス等

(1) 利用促進事業

- ① きのたんメール：春、夏、秋、冬号として、計 4 回発行
- ② HP や SNS を活用し、公園の多様な魅力（季節の花々、野生動物等）を随時発信
- ③ アジア圏（台湾・香港・中国・韓国）のインバウンド対策として、各種媒体での情報発信を再開
- ④ 開園 40 周年記念事業として各種取り組み（芝生文字、アートイベント等）を実施

(2) ボランティア活動

- ① フラワーガイドボランティア 登録 27 名（延べ 628 名）、活動 170 日間
グリーンシーズンの活動は、新型コロナの影響も緩和され、クマの園内侵入もなかったことから、チューリップの開花から秋のコキアに至る予定全期間で来園者へのガイドができた。ガーデンツアーは、引き続き人数をガイド 1 人に対して 5～7 人と制限し、ガーデン等の見どころで来園者へのスポット解説を実施した。また、夏休みの自由研究の一助として、小学生を対象としたフラワーガイド「お花の不思議発見隊」を実施した。
- ② 滝野の森クラブ 登録 45 名（延べ 1,438 名）、活動 169 日間
夏季はおさんぽガイドや森あそび、生きもの探しなどのイベントのほか、滝野の歴史の調査や植物調査、標本展示等を開催。また自生種保全や新しい見どころづくりのための森づくり活動なども行った。冬季はスノーシューツアーや雪あそびなどのイベントを実施し山の家主催のイベントにも出展。3 月には冬季一般開放していない滝野の森ゾーン西エリアでのスノーシューガイドも実施。また 7 月と 2 月は「たきの森フェス」で森見の塔周辺での森あそびコーナーを展開した。

(3) 主なイベント

- ① シラネアオイと春の野の花まつり 5月7日～5月21日
- ② 都市公園制定150周年記念「チューリップ・すずらんフェスタ」 5月19日～6月4日
- ③ 第10回北海道キャンピングフェア 5月20日・21日
- ④ チューリップ掘り取り体験 6月10日・11日
- ⑤ たきの森フェス～2023summer～ 7月9日
- ⑥ 滝野の森“野外”昆虫博物館 7月30日～8月16日
- ⑦ 札幌南マルシェ&たきの秋空コンサート 9月16日・17日
- ⑧ スポカル SP 9月23日・24日
- ⑨ たきのスノーフェスティバル 2月3日・4日
- ⑩ 第4回北海道米そり選手権 2月10日
- ⑪ たきの森フェス～2023winter～ 2月25日

3 厚別公園競技場の維持管理を含めた受託について

- (1) 厚別公園競技場緑地等維持管理及び指導・継承業務
一般財団法人札幌市スポーツ協会から、受託し、緑地・芝生の維持管理及び業務の指導・継承を発注団体の職員に実施した。
- (2) 厚別公園競技場興行イベント等運営サポート補助業務
一般財団法人札幌市スポーツ協会から、受託し、厚別公園競技場で開催された各種試合、競技会時のサポートを行い、大会運営を円滑に進めた。

収 1 公園施設等附帯収益事業

公園緑地・施設利用者の利便性と市民サービスの向上及び継続的な公益目的事業の展開とその充実に資するため、公園緑地・施設内における便益施設の運営等を行った。

1 常設売店の運営

公園施設等で売店施設を運営し、オリジナル商品の販売や、公園緑地の多目的利用をサポートする備品の貸出等を行った。また、百合が原公園、豊平公園、川下公園等では、札幌市の気候条件と季節に合った鉢花や、植物等に関する書籍、園芸用品等を販売した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、手稲稲積公園、前田森林公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、オンライン・ショップ

(2) 商品

鉢花等植物、園芸用品、オリジナルグッズ、スポーツ用品、用具レンタル（スポーツ用品、照明器具、音響設備、楽器）等

(3) 収入金額

42,646,595 円

2 臨時売店の設置運営

売店施設のない公園緑地及びイベント開催時等に臨時売店を設置し、営業した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、前田公園、前田森林公園、山口緑地、創成川公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、豊平川緑地

(2) 商品

飲食物、植物、絵葉書、しおり、その他公園施設関連商品等

(3) 収入金額

26,154,835 円

3 自動販売機の設置運営

公園緑地・施設に自動販売機を設置し、清涼飲料水、冷菓等を販売した。

(1) 設置場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、発寒西陵公園、手稲稲積公園、北発寒公園、前田森林公園、明日風公園、山口緑地、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、西岡中央公園、清田公園、東雁来公園

(2) 収入金額

29,171,226 円

4 その他便益事業

実績無し

評議員会及び理事会の開催等

(以下は全て承認・議決された)

評 議 員 会

みなし決議(令和5年5月24日付け)

評議員選任の件

定時評議員会(令和5年6月26日開催)

議 題 報告事項

令和4年度(2022年度)事業報告の件

決議事項

令和4年度(2022年度)決算承認の件

理事選任の件

理 事 会

みなし決議(令和5年5月22日付け)

評議員候補者選任の件

令和5年度第1回理事会(令和5年6月8日開催)

議 題 報告事項

理事長及び専務理事の職務執行状況について

決議事項

令和4年度(2022年度)事業報告承認の件

令和4年度(2022年度)決算承認の件

変更認定申請承認の件

理事候補者選任の件

定時評議員会招集及び提出議題の件

みなし決議(令和5年6月26日付け)

理事長選定の件

専務理事選定の件

令和5年度第2回理事会(令和6年3月22日開催)

議 題 報告事項

理事長及び専務理事の職務執行状況報告の件

決議事項

運営安定化積立資産取り崩しの件

都市緑化基金引当資産取り崩しの件

令和6年度(2024年度)事業計画及び収支予算書の承認の件

令和5年度事業報告

令和5年度事業報告には重要な事項について全て詳細に記載し網羅している。

よって「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第8条第1項第2号に定める事業報告書の附属明細書はない。